

平成 3 0 年 度

事 業 報 告 書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要

I. 運 営 概 要	1
II. 決 算 概 要	2
III. 組 織 概 要	3

第2 公 益 目 的 事 業

I. 事 業 総 括	6
〔1〕 決 算 額	6
〔2〕 管 理 施 設	6
〔3〕 主 な 実 施 事 項	7
II. 事 業 実 績	19
〔1〕 動物飼育及び展示業務	19
〔2〕 野生生物保全業務	41
〔3〕 教 育 普 及 業 務	43
〔4〕 受 託 業 務	78
〔5〕 市民・団体との協働業務	80
〔6〕 危 機 管 理 対 策	89

第3 収 益 事 業

I. 事 業 総 括	91
II. 事 業 実 績	92
〔1〕 便益施設等の経営	92
〔2〕 そ の 他 の 事 業	94

第4 事 務 報 告

I. 役 員 会 議 の 開 催	95
II. 監 査	96
III. 人 事 関 係	97

第1 運営の概要

I. 運営概要

平成30年度は、協会創立70周年という大きな節目の年であると同時に、恩賜上野動物園の子供動物園開設70周年、多摩動物公園開園60周年及び昆虫生態園開設30周年などを迎えた。

協会は、使命である「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」のもと、長年培ってきた技術・経験を土台としつつ、時代の変化にも柔軟に対応し、我が国の動物園・水族館の先導役として、また、都立動物園・水族園の指定管理者として、以下の5つの取組を積極的に展開した。そして、25年ぶりに4園合計の入園者数が800万人を超え、約812万人の方々に動物園・水族園の役割や魅力、楽しさを伝えることができた。

1 野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」

豊富な飼育繁殖技術を活用して展示の充実に努め、また、国内外の動物園・水族館とのネットワークを一層強化し、展示動物の交流や、技術交流などの共同事業を推進することで展示内容の魅力向上を図った。

主な取組：日本産ライチョウの公開開始。アメリカからのオカピの導入。シンガポールからのシノノメサカタザメの導入・初展示など展示の充実。国際会議等への参加や海外派遣研修による最新の知見や飼育技術の習得 など

2 「第2次ブーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」

「野生生物保全センター」を中心に4園が役割分担し、計画的な野生生物の保全活動を展開した。また、大学や研究機関等と連携した希少種の調査研究を行うとともに、「野生生物保全基金」の助成内容を拡充し保全活動への支援の充実に努めた。

主な取組：アムールトラ、レッサーパンダ、チーター、オランウータンなど希少動物の繁殖。アカガシラカラスバト、ルリカケスなどの保全に関する普及啓発。アカハライモリ、ミナミメダカなどの保全に係る調査 など

3 多様なプログラムや情報発信による「教育普及」

4園がそれぞれの特色を活かしながら教育プログラムを精力的に展開し、社会教育施設としての活動を推進するとともに、多様な媒体を活用し魅力を広く発信した。また、友の会の運営や、ボランティア等との協働事業を通じ、動物園・水族園事業への参画意識を促進した。

主な取組：教員研修、学校教員セミナー、小中学校への講師派遣、移動水族館等の実施。教師を目指す学生向けの講座（東京都実施）への協力。海洋プラスチック関連展示など環境教育の普及啓発 など

4 魅力的な商品やホスピタリティあふれるサービス提供

展示動物などと連動した多様なイベントを実施するとともに、来園者ニーズを捉えた商品開発や店舗装飾を展開した。また、電子マネー決済の導入などにより来園者サービスの向上を図った。

主な取組：障がいのある子どもたちとその家族への観覧機会の提供。夜間開園などによる利用促進。シャンシャンの1歳の誕生日を記念したぬいぐるみやデザートメニューなど魅力的な商品、サービスの提供 など

5 万全な施設管理や危機管理体制の整備による「安全・安心の確保」

園内施設の適切な点検・補修などにより良好な園内環境を確保するとともに、大規模災害や人為災害等に備えた各種訓練を実施し、お客様の安全・安心の確保を図った。

主な取組：施設、設備や樹木等の日常点検、剪定及び不具合への迅速な対応。警視庁や消防庁と連携した災害やテロ対策のための訓練、公募型避難訓練の実施などによる災害対応力の向上 など

Ⅱ．決算概要(正味財産増減計算書)

(単位：千円)

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用収益	2,427	—	3,803	6,230
特定資産運用益	4	—	—	4
受取会費	8,488	—	—	8,488
事業収益	38,679	3,981,557	—	4,020,236
受取寄付金	36,826	—	—	36,826
受取委託料	5,685,295	—	187,397	5,872,692
雑収益	18,394	9,114	353	27,861
経常収益計	5,790,111	3,990,671	191,553	9,972,335
(2) 経常費用				
事業費	6,037,190	3,366,816	—	9,404,006
管理費	—	—	287,792	287,792
経常費用計	6,037,190	3,366,816	287,792	9,691,798
評価損益等	0	9,520	0	9,520
当期経常増減額	△247,079	633,374	△96,239	290,057
2. 経常外増減の部				
経常外収益	10,834	22,731	4,739	38,304
経常外費用	0	5,214	0	5,214
当期経常外増減額	10,834	17,517	4,739	33,090
他会計振替額	274,871	△390,161	115,291	0
税引前当期一般正味財産額	38,626	260,730	23,791	323,147
法人税等	—	78,000	—	78,000
法人税等調整額	—	541	—	541
当期一般正味財産増減額	38,626	182,188	23,791	244,606
一般正味財産期首残高	288,166	1,316,982	296,985	1,902,132
一般正味財産期末残高	326,792	1,499,170	320,776	2,146,738
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	42,216	0	0	42,216
一般正味財産への振替額	36,826	0	0	36,826
当期指定正味財産増減額	5,390	0	0	5,390
指定正味財産期首残高	164,848	0	0	164,848
指定正味財産期末残高	170,238	0	0	170,238
III 正味財産期末残高	497,030	1,499,170	320,776	2,316,976

Ⅲ. 組 織 概 要

〔１〕 協会の機構

○ 総 裁 常陸宮正仁親王殿下

○ 会 長 貫 洞 哲 夫

機関名	名 称	人数等	摘 要
1. 議決・監督 機関	評 議 員 会	17 名	
2. 執 行 機 関	理 事 会	11 名	理事長・常務理事を含む
	理 事 長	1 名	
	常 務 理 事	1 名	
	参 与	2 名	
	事 務 局	4 部 13 課 47 係	
3. 諮 問 機 関	顧 問	8 名	
4. 監 査 機 関	監 事	3 名	
5. 協 力 機 関	賛 助 会 員	4 名	
	特 別 会 員	1 名	
	準 会 員	3,461 名	東京動物園友の会会員

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

【事務局】



〔 3 〕 事務局職員数

(単位：人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
197	137	334	108	0	108	305	137	442

(平成31年 3 月 31 日現在)

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園の指定管理者として管理運営を行うとともに、動物園事業の発展・振興を図り、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的に、動物飼育及び展示業務、野生生物保全業務、教育普及業務、受託業務、市民・団体との協働業務、危機管理対策を実施した。

I. 事業総括

〔1〕決算額 6,037,190千円

〔2〕管理施設

名 称	住 所	開園面積（㎡）	摘 要
恩賜上野動物園	台東区上野公園、池之端三丁目	144,048.73	
多摩動物公園	日野市程久保六丁目、七丁目、 南平八丁目	601,372.54	うち無料開園区域 77,508.22㎡
葛西臨海水族園	江戸川区臨海町六丁目	85,958.90	
井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山一丁目、 三鷹市井の頭四丁目	115,500.00	

〔3〕主な実施事項

1. 4園共通

【動物の飼育・展示】

適正な動物飼育と魅力的な展示の充実に向け、都立動物園・水族園4園間での調整を図りつつ飼育展示業務を着実に実施した。また、高度な飼育繁殖技術の継承・発展を目指して、各園で教育普及・飼育展示研究会を定期的に開催しているほか、国内外の会議・学会・研究会等へも職員を積極的に派遣しており、各方面の専門家との人的・技術交流により、最新の知識や技術の向上を図っている。

各園の飼育動物の適正な管理を図るため導入している動物個体管理システムについては、新たにインベントリーの出力機能を追加し、より迅速で効率的な個体管理の実現を図った。

将来を見据えた対応として、中長期的な視点から生物系職員の人材育成を進めるため、各園の園長や飼育展示課長からなるプロジェクトチームを設置し、人材育成体系やそのための研修制度のあり方について検討を行っている。

【野生生物の保全】

野生生物保全センターを中心に、各園で希少種等の保全活動を推進しているが、30年度はレッサーパンダやチーター、オランウータン、ライチョウ等の繁殖が相次ぎ、4園でズーストック種及び保全対象種のうち、20種の繁殖に成功した。

東京都によるズーストック計画の改訂に協力し、10月末に策定された「第二次ズーストック計画」対象種124種について、飼育繁殖、保全、普及等の取り組みに関する評価検証を行った。

「種の保存法」が6月に改正施行され、希少種の保護増殖について一定の基準を満たす動植物園等を環境大臣が認定する「認定希少種保全動植物園等」制度が開始された。都立動物園・水族園4園とも認定を受けるべく、環境省と申請書類の事前審査等の調整を行った。

飼育・保全のための国内外ネットワークの拡充については、大学・研究機関や国内外の動物園・水族館等との連携に積極的に取り組み、国立研究開発法人水産研究・教育機構や、タイ王立動物園機構、名古屋市東山総合公園等と新たに連携協定を締結した。大学や各種研究機関との共同研究等にも引き続き積極的に取り組んでいる。

【教育普及】

野生生物や、野生生物が置かれた環境等についての普及啓発を進めるため、引き続き多様な媒体を活用し、様々なプログラムを実施した。

4園連携の企画としては、障がいのある子どもとその家族を招待する「ドリームナイト（ドリームデイ）」を開催したほか、当協会が行う保全活動現場の見学会「アカハライモリの保全現場をたずねる」や、小学校教員を対象とした「授業に活かせる『動物園・水族園』講座」を引き続き実施した。また、講演会「小笠原の自然環境と保全」を葛西臨海水族園で開催し、各園で取り組んでいる小笠原陸産貝類の保全など、都立動物園がすすめる小笠原の希少種保全の取り組みを広く伝えることができた。

多摩動物公園の開園60周年記念において月ごとにテーマを定めて各種イベントやスペシャル

トークを実施したほか、各園で飼育職員が動物の生理や生態を解説するキーパーズトークを多数実施し、4園合計での実施件数は4,200件以上となった。このほか、各園とも園内での多様な教育プログラムや工夫を凝らした特設展・企画展、自然を体験するフィールドプログラム、野生生物の知識を深める講演会やシンポジウム等、楽しみながら学べる動物園・水族園の実現に向けて、各種プログラムの充実に取り組んだ。

各園が行う教育普及事業を統括する部署として、31年度より総務部に「教育普及センター」を設置することとなった。その開設に向けて、各園の教育普及課長等からなるプロジェクトチームが、その機能や各園の活動との関係について整理を行うなど、準備を進めた。

【園内サービスの提供】

来園者の要望や満足度を把握し、サービスの改善・向上を図るために、各園に様々な形で寄せられるご意見・ご要望をデータベース化し、各園の課題の抽出と共有化を進めた。また、寄せられたご意見・要望とその対応についてホームページ上での公開を開始した。

上野・多摩・葛西では恒例の夏季の夜間開園を開催し、期間中に様々なイベントを実施し、多くのお客様で賑わった。井の頭では新たな試みとして10月に夜間開園を行い、園内の彫刻にスポットを当てた講演会や、様々なイベントを実施し好評を得た。

恒例となった冬季の「VisitほっとZoo」キャンペーンでは、東京2020大会も見据え、「みてみよう 日本の動物 ここがすごい!」と題し、日本産動物をテーマにした様々なイベントを4園が連携して実施した。秋季には、小さい子供を持つ家族が動物園・水族園を訪れるきっかけ作りとして、お出かけ情報サイトとのコラボ企画を実施するなど、機会をとらえ4園でのキャンペーンを実施した。また、11月に上野の各文化施設を会場に開催された「第66回全国博物館大会」では、都立動物園・水族園の紹介ブースを出展したほか、各種媒体を活用した効果的な広告宣伝により都立動物園・水族園のPRに努めた。

増加しつつある訪日外国人来園者の動向を把握するため、引き続き各園での来園者国別推計調査を行ったほか、インバウンド向けに空港直結の鉄道路線に、季節性を意識した広告を掲出し、訪日外国人観光客の来園誘致を図った。また、平成31年度に上野動物園に設置する予定の訪日外国人向けの「ツーリストインフォメーション」や、入場門でのキャッシュレスの導入に向けた検討を行った。

様々な利用促進の取り組みに加え、29年12月から公開を開始したジャイアントパンダの「シャンシャン」の人気による影響が依然大きく、4園合計の入園者数は812万人となり、記録的な入園者数であった前年をさらに上回る結果となった。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

施設管理については、日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、不具合を早期に発見し、迅速に対応することで園内の安全で快適な環境を確保した。台風、集中豪雨、大雪等の自然災害に対しては、気象災害対策計画や雪害対策計画に基づき、迅速に緊急点検を実施し、不具合箇所や落枝等の早期発見・対応により、来園者への影響を未然に防いだ。

省エネ対策として、照明施設のLED化を進めるとともに、設備機器類を高効率なものへ更新し、環境負荷が少ない施設づくりを推進した。また、東京2020大会を見据え、来園者の快適性向上のため、コンペ方式を取り入れたトイレのリニューアルや洋式化など、ユニバーサル仕様への改修等を行った。

協会職員が中心となり「動物園等における緑の資源化研究会」を設置した。研究会では冊子『動物園の緑を活用する39のヒント』を取りまとめ、全国の動物園に配布するとともに、協会内で共有化し、各園の植栽活用を進めた。

危機管理については、各園において、災害対策初動訓練、事業継続訓練、参集訓練、救急救命講習を引き続き実施するとともに、災害発生時は電話等の通信が困難になるため、MCA無線による通信訓練、職員安否確認メール訓練を定期的を実施し、大規模災害への備えを向上させた。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、各園で警視庁と連携し、凶器、爆発物等の使用を想定したテロ対策訓練を実施した。

動物に関する危機管理対策としては、多摩動物公園でオランウータンの脱出を想定した猛獣脱出訓練を実施した。

情報セキュリティ対策については、全職員を対象に集合研修を実施し、巧妙化するサイバー攻撃への対応、個人情報を含む重要情報等の取り扱いについて周知徹底した。また、万が一情報漏えいが起こった場合の初動対応、組織の連絡体制について情報セキュリティ机上訓練を実施したほか、パソコン端末上の個人情報等の点検・削除、情報セキュリティ自己点検、eラーニング、標的型メール訓練を実施した。

2. 恩賜上野動物園

【飼育・繁殖】

ジャイアントパンダは、昨年度に引き続き、「シンシン」（母親）と「シャンシャン」（平成29年6月12日生）親子の適切な飼育管理に取り組んだ。シャンシャンは順調に成育し、母乳から竹への採食にスムーズに移行していたことから、11月5日より親子分離を4段階に分けて計画的に進め、12月10日に終日分離飼育することができた。

オカピは、アメリカ動物園水族館協会の「Okapi Species Survival Plan」に基づき、「バカーリ」♂を12月に北米のホワイトオーク保全センターから搬入した。一方「カセンイ」♀（平成6年生）は、1月下旬から体調不良が続き、2月3日に死亡した。

スマトラトラは、新たなペアリングに取り組むため、11月に「ケアヒ」♂を仙台市八木山動物公園に返却し、12月に「ブラン」♂をみさき公園より導入した。

アメリカバイソンは、「ヒート」♀が5月に「オーレ」♂を出産した。ニシアフリカコガタワニは、5月に産卵があり、8月に孵化し、成育した6頭の公開を10月より開始した。

【保全活動】

アカガシラカラスバトは、平成31年3月に父島で保護された♀1個体の受入れを行った。また小笠原に出張し、島民に対して飼育状況の報告を行った。同種について飼料に関する共同研究を日本獣医生命科学大学と継続実施した。

ライチョウは、飼育下第1世代のペアを用いて繁殖に取り組んだ結果、計13卵が得られ、7卵で発生が確認され、その内4卵を那須動物王国に移動、上野では3卵中2卵が孵化し、♀1羽が成育した。保護増殖検討会の計画に基づき、12月に♀1羽がいしかわ動物園に、31年3月に横浜市繁殖センターにそれぞれ移動した。また、同計画に基づき新たなペアでの繁殖を目指すため富山市ファミリーパークから♂1羽を31年3月に受け入れた。今までライチョウは非公開であったが、保全の取り組み等の普及啓発のために保護増殖事業の一環として上野をはじめ国内5施設で3月15日より公開展示を開始した。またライチョウに関する共同研究を、日本獣医生命科学大学、中部大学、岐阜大学とそれぞれ継続して実施した。

ルリカケスは、30年3月に3羽が孵化し（内1羽死亡）、人工育雛により♂1羽♀1羽が順調に成育した。奄美大島で、普及啓発のため龍郷町教育委員会、奄美野鳥の会、平川動物公園と協同で、9月に小学生向けに「子ども博物学士講座」を開催した。新規導入については、奄美大島で保護された雛♀1羽を3月26日に受け入れたが、創始個体については昨年に続き捕獲直前で巣箱内の雛が消失し新たな個体を搬入することはできなかった。

イボイモリは、昨年に引き続き産卵がみられ、年度当初6頭の成体から、3月末現在、20頭の幼体、20頭の幼生が成育している。小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイの生息域外保全の取り組みは、年度当初の38頭から104頭に増加している。

【教育普及・催物等】

平成30年4月に子ども動物園開園70周年を記念して、子ども動物園70周年記念ウィークと称し、様々なイベントを開催した。子ども動物園の歴史を紹介するパネル展示と工作系イベントやスタンプラリーを実施したほか、国際子ども図書館や聞かせ屋けいたろう氏と連携した絵本の読み聞かせ会や、飼育の日連携イベントとして飼育係によるガイドツアーとおはなし会を実施し、イベント参加者には70周年記念グッズとして缶バッジやクリアフォルダを配布した。

アウトリーチ活動については、講師派遣数は17件とほぼ前年度並みであったが、29年度の学習指導要領の改訂により、小・中学校で道徳が「特別な教科道徳」と定められたことから、道徳授業地区公開講座への講師派遣の依頼があり、9月～10月にかけて台東区や墨田区など、都内の小学校3校に講師を派遣した。

上野観光連盟との連携により実施した三代目「うえのパンダ大使」は、任命された8名の子どもたちが、ワークショップや園内のイベント等の手伝いとして参加し、ジャイアントパンダの生態や魅力を伝える普及活動を行った。そして、今までの活動の集大成として動画を作成し、3月にズーネットに掲載した。

世界自然保護基金(WWF)や国際こども図書館、上野公園の9つの施設が連携するMuseumStartあいうえの等、外部機関との共催イベントにも積極的に協力し、連携を深めた。

【維持管理・園内サービス】

上野動物園整備計画により、平成30年6月10日で表門が閉鎖となり、6月12日から仮設表門による運用が開始された。

ジャイアントパンダの観覧方法については、30年2月1日より整理券制による先着順を導入していたが、整理券を受け取るために朝早く来園できない方への配慮、及び夕方の実観覧率の低下が見受けられたため、6月5日より、観覧列に並んでいただいた順にご案内する方式に変更した。また、7月14日からは、疾病・負傷などにより、長時間列に並ぶことが難しい方向への対応を開始し、31年2月19日からは、できるだけ多くの方にパンダをご観覧いただくと共に小学生以下のお子様が観覧しやすい環境をつくるため、これまで観覧に使用していなかったパンダ舎内の後列を新たに観覧列として活用するなど、観覧環境の向上に努めた。また、夏期の暑熱対策として、パンダ舎前の待機列にテントやミストを新たに設置すると共に、観覧待機中の来園者へうちわの配布など、熱中症予防のための取り組みを実施した。

園内サービスでは、近年増加傾向にある外国人来園者の満足度向上を目的としたツーリストインフォメーションの設置に向けた準備を開始した。また、昨年度に引き続き、ベジタリアン向けメニューの開発や案内図・サインの見直しを行い、共に31年度より運用を開始することになった。その他、接遇スタッフへの英会話研修、タブレット端末を利用した通訳サービスの利用等、多言語対応に向けた取り組みについて、継続実施した。

便益施設では、悪天候でも野外卓を利用できるよう、東園中央広場休憩所付近やサル山前休憩所などに開閉式テントを設置し、来園者の利便性向上に努めた。また、昨年度に引き続き、東園無料休憩所の閉鎖に伴う飲食提供施設の補完としてキッチンカーの出店等を実施し、また、園内唯一の屋内休憩施設となった西園無料休憩所のイスとテーブルを更新し、快適な休憩スペースの提供を推進した。

危機管理対策では、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」に向けて国内のテロ対策が強化される中、昨年度に引き続き警察と連携したテロ対策訓練を実施し、サスマタの使用方法を習得すると共に、ドローンを活用した搜索活動を視察した。また、事業継続計画の机上訓練を実施し、マニュアルを更新した。

園内維持管理では、省エネ対策として園内施設のLED化・空調設備更新を推進すると共に、園路の不陸部分の舗装や園内樹木の枝処理など、利用者の快適性の向上と安全確保に努めた。また、来園者サービス向上に向けた取り組みの一つとして、表門横トイレ及び授乳室のリフォーム整備を行った。

3. 多摩動物公園

【飼育・繁殖】

平成30年度も希少野生動物の飼育展示・繁殖に努めた。31年連続でのニホンコウノトリを始め、アムールトラ、オランウータン、レッサーパンダ、チーター、サーバル、キリン等、様々な種において繁殖に成功した。飼育動物の血統更新のため国内外の動物園と連携し、平成28年度にオス個体を導入したアムールトラでは9年ぶりの繁殖となった。このほか4年ぶりのオランウータン、3年ぶりのサーバル、そして昨年度に引き続くチーターの繁殖等により園内展示の魅力向上が図られた。

また、大規模工事の影響で限られた放飼場で飼育をしているキリンやライオン等について、個体の健康維持や展示の工夫に取り組んでいる。

【保全活動】

生息域内、域外の両面において保全活動の取り組みを強化している。トキについては繁殖した8羽を佐渡トキ保護センターへ搬出したほか、業務委託計画に基づく定期健康診断の実施等により佐渡での保護増殖事業に協力した。ニホンコウノトリでは、IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）の計画に従って放鳥個体の遺伝的多様性を維持するため、平成25年から、コウノトリの郷公園に多摩生まれの卵の輸送を実施している。オガサワラシジミでは、園内施設を用いての交配に成功し、累代繁殖を継続している。また、小笠原で生息状況が急激に悪化している小笠原産陸産貝類であるアナカタマイマイの生息域外保全の取り組みを始めた。

生物工学分野では、EIA法によるホルモン測定を実施し、チーター、ツシマヤマネコ、キョン（大島公園動物園飼育個体）等の繁殖生理の解明に役立てている。また、PCR法を用いた鳥類・哺乳類の性判別を実施している。ミトコンドリアDNA解析では、新たな生息を確認した地点を含むメダカ地域個体群解析、小笠原で採取したアカガシラカラスバトのサンプルからハプロタイプ解析、園内定着を目指すゲンジボタル群の由来確認のための解析、動物園周辺に生息するアズマヒキガエルの交雑調査等を行った。これらは保全指針を決める一助となっている。

普及啓発分野では、小笠原における野生生物保全について、島民および一般市民への普及啓発を目的に、平成25年度より、東京都、小笠原村や地元組織等と連携し、島と本土で講演会等を実施している。また、IPPM-OWSと協力し、26年度から毎年コウノトリに関する講演会等を開催している。

【教育普及・催物等】

開園60周年を迎え、記念事業として様々な教育プログラムを実施した。とくに一年をとおして行った月間動物企画では毎月異なる対象動物をテーマにキーパーズトーク・クイズラリー・パネル展・講演会・ワークショップなど、いろいろな手法でプログラムを展開した。その他にも、動物観察へ誘導する「動物観察カード」79種類の作成・配布、スペシャル電車の運行、記念講演会などの取り組みで60周年を盛り上げた。

一般来園者向けの教育プログラムとしては、動物解説員によるガイドツアーや飼育担当者によるキーパーズトークのほかにクイズラリーやキーワードラリーなど、家族連れが気軽に参加し、楽しく学べる企画を中心に開催した。また、ボランティアの協力も得て各動物舎でクイズやビンゴなどの手法を使ったガイドも積極的に行った。

一方、事前募集で体験をととしてじっくり学ぶサマースクール、動物園学講座、サイエンズカフェ、ワークショップなど、対象を絞ったプログラムも引き続き実施した。

学校との連携では、動物園での動物観察の支援や身近な昆虫への関心を引き出すプログラムを中心に、幼児から大学生と幅広い年齢の団体を受け入れた。教員向けの「昆虫の飼い方・さわり方」の内容とデザインをよりわかりやすいものへと改訂し、配布した。また、新たにモルモットの飼い方教室を近隣の保育園・幼稚園・小学校の教員向けに行った。

特設展は新アフリカ園無料休憩所の完成にともない、ウォッチングセンターの広いスペースで開催した。干支の動物イノシシをテーマに、パネルだけでなく、はく製や毛皮、トレーニングの道具など、楽しく学べる工夫をこらし、様々な角度からイノシシを学べる展示とし、来園者の反応もよかった。

その他、東京都埋蔵文化財センターとの共催プログラムや、京王電鉄・京王百貨店・伊勢丹立川店に協力し広く多摩動物公園を知ってもらうためのイベントを開催し、地域との連携に取り組んだ。

【維持管理・園内サービス】

安全・快適に園内を利用できるよう、園路や手すりの補修、フェンスの設置などを行った。また、倒木や落枝対策として、樹木点検・診断に基づく伐採・剪定処理や枯れ枝除去を継続した。園内環境や動物飼育環境を支える基盤となる電気・機械設備に関しては、定期的な保守点検に加え、常に十分に機能発揮するよう、不具合箇所の迅速な修繕を行った。

省エネ対策としての照明のLED化や、快適性向上策としての園内トイレの洋式化や温水洗浄便座化にも引き続き取り組んだ。更に、適正かつ快適な飼育環境確保のため、建物点検で不具合の指摘された正門横売店の外壁改修のほか、各所動物舎の扉や飼育室床、放飼場などを改修した。

園内の魅力向上策として、動物の生息地の植物を用いた動物園らしい景観形成に取り組み、コアラ館付近ではオーストラリア園の花壇にふさわしい、オーストラリア原産の植栽を行った。無料開園区域である七生公園については、適正な園地管理のため、草刈や林床整理、樹木管理等を行ったほか、管理の基礎資料として環境調査を継続している。

案内接客スタッフの接客力向上を目的に、外国人来園者対応として英会話講習、聴覚障がい者対応として手話講習、園内放送・接客対応力向上を目的としたボイストレーニング・アナウンスメント研修を継続実施した。また、外国人来園者対応として導入した映像通訳タブレット端末を引き続き活用した。更には、救命講習（赤十字救急法救急員養成講習や上級救命講習など）や防災体験講習に積極的に参加し、初動対応における傷病者への応急手当や搬送などの知識と技術、被災時の心構えの習得に努めた。

便益施設では、平成28年3月に閉鎖され、建て替え工事をしていたアフリカ園無料休憩所及び休憩所内飲食提供施設サバンナキッチンがオープンした。ベビーカー貸出所では、利用者の満足度向上のため、ベビーカーの新規更新を行った。また、園内授乳室2か所に調乳用温水器を設置し、乳幼児連れ来園者の利便を図った。

4. 葛西臨海水族園

【飼育・繁殖】

平成30年度は、5月にシンガポールのSEA水族館よりシノノメサカタザメ2尾を搬入し、6月にマグロ大水槽の擬岩側に初展示した。これは、多様な生物の展示にチャレンジするため、29年春季にマグロ大水槽に仕切りを設置し、クロマグロがいるアクアシアター側とスマやハガツオがいる擬岩側に水槽を分けたことによるものである。8月には、海洋研究開発機構(JAMSTEC)が実施した体験乗船イベントに協力し、その際に採集されたユメナマコとワタゾコナマコを搬入した。ユメナマコについては、8月8日から22日にかけて初展示を行った。また、生物の繁殖にも積極的に取り組んでおり、「カナダ沿岸」水槽で展示しているセイルフィンスカルピンや「北海」水槽で展示しているランプサッカー、「東京湾 泥干潟Ⅰ」水槽で展示しているトビハゼが繁殖し、鳥類ではイワトビペンギンが4羽繁殖した。この他、東京産の両生類では、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ツチガエル、アカハライモリが繁殖した。域外保全を行っているゼニタナゴについては、屋外水槽において秋に二枚貝を用いて採卵を行い、108尾を繁殖することができた。また、産卵に用いる二枚貝の安定した飼育技術の開発にも積極的に取り組んでいる。

【保全活動】

保全活動として、井の頭自然文化園、多摩動物公園、上野動物園と共同でアカハライモリやミナミメダカの調査を継続的に行った。国立研究開発法人森林研究・整備機構と連携し、多摩市立連光寺小学校への体験授業を通年で実施したほか、一般向け観察会の開催など、生息地での保全活動とともに普及活動に年間を通して取り組んだ。また、「東京めだか」では生息の確認・情報提供があった地点などからサンプリングしDNA分析調査を行い、域外保全中の調布市産個体群の危険分散先として、都立農業高校神代農場を候補地とし調整を始めた。トビハゼは、東京湾内で調査研究を行っている8施設による「トビハゼ保全施設連絡会」を水族園が事務局となり引き続き実施した。6月には、江戸川放水路において、連絡会のメンバーが協力して解説を行うトビハゼ観察会を行い、また「東京湾 泥干潟Ⅱ」水槽において、今年度繁殖した幼魚の展示を行い、来園者に東京湾のトビハゼの現状を伝えている。

【教育普及・催物等】

4年目となった移動水族館事業は障がいや病気などのために来園することが難しい方々がいる特別支援学校、病院、社会福祉施設、また教育を目的としたイベント等を対象に合計65回を実施した。また、7月には、海鳥の保全活動で連携している北海道羽幌町で行われた海鳥フェスティバルに移動水族館を出展し、現地では見られない熱帯系の生物を展示して生物多様性を知ってもらうきっかけを作った。

園内外の教育活動では、特設展示や講演会、教育プログラムの開発・実施、既存教育プログラムの見直しと更なる充実に継続的に取り組んだ。

特設展示としては、7月26日から3月31日まで水生植物をさまざまな角度から取り上げた特設展「水辺に生きる草」を、8月1日から10月16日まで海鳥について当園が過去に研究発表した内容をパネルで紹介した「海鳥パネル展」を、また、11月1日からさまざまな生き物の保育場となる環境を取り上げた特設展「海のゆりかご」を開催した（平成31年度も継続中）。

講演会としては、9月15日に「水草講演会」を、11月25日に海鳥についての講演会「つどえ、

オロロヘン！」を、都立動物園共催の取り組みとしては1月19日に「小笠原の自然環境と保全」を、2月23日に「東京の カエルについて かんガエル」を実施した。

教育プログラムとしては、学年別シリーズプログラムに幼稚園年長～大学生までのほぼ全ての年齢を対象とした学年別シリーズプログラムをそろえた。一部のプログラムについては、プログラムの改善につながる評価研究を東京大学の協力のもと行った。フィールドプログラムにも積極的に改善を重ね、平成31年2月11日、当園として初めて海苔を取り上げた東京の海を知る第4回「海苔をつむ・作る・食べる」を千葉県木更津市で実施した。

その他、不特定多数の来園者を対象にしたイベントとしては、夏の開園延長時の「ナイト・オブ・ワンダー」、障がい者向けの「ドリームナイト」や開園記念イベント「帰ってきた! All About MAGURO」では2年目を迎えたハワイの海を舞台にしたミュージカル「ホヌ・バイ・ザ・シー」を実施し、多くの参加者で賑わった。また、MSC東京事務局と共催で6月24日に「ココリコ田中MSCアンバサダー就任式&トークショー」及び10月10日に「サステナブル・シーフード・クイズ」を実施した。さらに、3月16日に東京都環境公社「スポGOMI大会in葛西」と共催してごみ問題についての端緒をつくった。

【維持管理・園内サービス】

経年劣化や故障による機器や配管類は適宜、補修を行っているが、予防保全の考え方を取り入れて不具合発生前に補修や改修を行い、施設停止の影響を最小限に留めた。

園内樹木は、植樹から30余年経過し育成から成熟の時期を迎え、樹形を考慮しながら剪定と世代交代を考慮した間伐を行い、健全な生育と自然環境の創出、保全を行った。

夏季における園内サービスとしては、観覧通路・無料休憩所における扇風機による送風（夏季空調温度抑制対策による冷房補助対策）、空の広場における間欠式散水による来園者への輻射熱対策、ミスト扇風機の導入（水の広場売店周辺、売札所）、氷柱や風鈴の設置（ゲート棟）など来園者への涼感の演出及びサービスを行った。

外国人来園者への対応として、接遇スタッフの英会話講習を継続実施したほか、映像通訳タブレット端末を増設し園内2個所で対応できる体制を整えた。また、専門講師による呼吸法、発声、活舌等を中心としたボイストレーニング・アナウンスメント研修を継続実施し、園内放送における対応力向上に努めた。

5. 井の頭自然文化園

【飼育・繁殖】

平成30年度、動物園（本園）では、5月にヤクシカのオスとメス各1頭が誕生した。記録によると前回の繁殖は平成8年8月であり、22年ぶりの子の誕生であり、来園者の人気を集めた。一方、10月にはツシマヤマネコのオス（推定17歳以上）、31年2月にはメス1頭が死亡した。このメスは当園で唯一の展示個体であったため、これにより27年10月から継続していたツシマヤマネコの展示が途絶えることになった。

また、11月に弘前市弥生いこいの広場からニホンイノシシのメス2頭が来園し、11月から公開した。まだ幼獣（30年7月生まれ）であり、活発に動き回る姿は来園者に好評であった。ニホンカモシカは28年6月にそれまで飼育していたメスが死亡して以来、オス1頭のための飼育であったが、11月に盛岡市動物公園からニホンカモシカのメス1頭が来園し、今後の繁殖が期待される。

水生生物園（分園）では、今年度も春から夏にかけて水生昆虫の繁殖に取り組み、順調に繁殖を行うことに成功し、タイコウチ、タガメ、ゲンゴロウなどの展示を充実することができた。

水鳥類については、野生での生息数が減少しているサギの一種ミゾゴイの導入を検討し、10月に宮崎市フェニックス自然動物園から同親のオス1羽・メス1羽を、12月には横浜市立繁殖センターからオス1羽を導入した。今後これらのペアリングを試み、繁殖を目指していく。また30年度は、例年どおりオシドリや各種カモ類の繁殖に取り組んだほか、当園生まれのオオハクチョウの血統を残すべく、繁殖を試み、オス2羽・メス1羽を育てることができた。ハクチョウについては、幼鳥時の灰色がかかった体色が親鳥との違いがわかりやすく、当園における種の保存の取り組みについて来園者への普及啓発の展示として大きな効果があったと思われる。

【保全活動】

ツシマヤマネコの保護増殖事業では、環境省と日本動物園水族館協会が共同で策定した「平成30-31年ツシマヤマネコ繁殖（移動）計画」に基づき、5月にオス1頭をよこはま動物園、11月にメス1頭を名古屋市東山動植物園に搬出した。また当園は同計画において「人工繁殖推進施設」と位置付けられており、27年から毎年1月に人工授精を行っているが、未だ妊娠・出産に至っていない。今年度も31年1月に人工授精を実施したが、2月にエコーによる妊娠診断で、今回も妊娠していないことが判明した。

アカガシラカラスバトの保護増殖事業では、上野動物園から導入したオス・メス各1羽の飼育展示を継続している。東京文化財ウィーク（30年10月27日～11月4日）にちなみ、動物舎に「のぼり」などを設置するとともに「解説カード」を配布した。また、動物解説員による特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」を実施し、文化財としての重要性を認められたいきさつや、野生での現状などについて解説するなどの普及啓発活動を行った。

29年度から新たに小笠原諸島父島に生息する陸産貝類（いわゆるカタツムリ）の絶滅危惧種であるカタマイマイの生息域外保全を開始したが、6月に初めて産卵を確認した。その後、31年2月末日までに28卵の産卵があり、うち18卵が孵化している。

東京産両生類は、引き続き4園が連携して飼育下繁殖の技術向上と野外採集にできるだけ依存しない展示の維持に努めている。今年度はトウキョウダルマガエルなどいくつかの種で繁殖に成功した。淡水魚類については、（公社）日本動物園水族館協会が策定した飼育下繁殖計画に

基づき、当園では引き続きミヤコタナゴやムサシトミヨを重点に、国内の淡水魚を飼育する水族館らと連携し、保護増殖に取り組んでいる。

【教育普及・催物等】

専属のデザイナーにより、統一感のあるデザインと分かりやすい情報ラベル等の作成を継続し、さまざまな情報発信を行った。また、地域の民間企業や団体との連携の中でも当園のデザインを中心に展開し、園のイメージ強化を図った。

教育プログラムとしては、動物解説員のガイドツアーや教員向けセミナー、小学生対象のサマースクール等を内容の検討を加えながら継続してきた。また、4日間連続の講座「大学生のためのズーカレッジ」を開講した。その他、日本獣医生命科学大学や東京農工大学をはじめとして、様々な学校・団体の受け入れを積極的に行った。

野生生物の保全に関する普及啓発については、平成30年10月に「ヤマネコ祭2018」を2日間開催し、生息地の対馬市や保全に取り組む様々な団体とともに、ヤマネコに関する様々な普及啓発を行った。また、国連生物多様性の10年日本委員会が取り組む「MY行動宣言」について、スタンプラリーや各種講習会等での啓発を図ってきた。

毎年、春は生物多様性、夏は創作怪談、年末年始は干支にちなんだオリジナリティの高いスタンプラリーを開催しており、子供たちに楽しみながら動物について知ってもらえるように工夫をした。

資料館での企画展は、「園長室前いきもの広場」を30年11月から開催した。動物園の園長が収集した博物画や標本、海外の動物園資料などがぎっしりと詰まった“架空の園長の部屋”と、「いきもの広場」で見られる身近な生き物の生体展示を組み合わせた。また、ミノガの幼虫（ミノムシ）の冬越しの様子などを体験できるハンズオン展示をおこなった。

彫刻館では、金属を溶かして型に流し込む「鑄金」という技法で作られた動物のブロンズを中心に構成された「どいて どいて 舟がでるよ——鑄金家 本山ひろ子作品展」を31年1月から開催した。さらに、「鑄金」の制作工程を体験することができるワークショップ「金属を溶かして作品をつくってみよう」を31年3月に開催した。

自然観察会は園内の生物をさがす「身近ないきもの探検」、「親子で井の頭池たんけん」、園外ではあきる野市秋川での「親子で川遊び」を実施した。

講演会は、野生生物保全協会（Wildlife Conservation Society）展示グラフィックアーツ部門スタジオマネージャーの本田公夫氏による「WCSによるニューヨークの動物園・水族館展示」を実施したほか、日本産動物講演会として動物写真家の福田幸広氏によるニホンアナグマの講演、ヤマネコ祭ではヤマネコの保全に関する2題の講演をおこなった。また、都立動物園・水族園合同企画として、「身近な水辺保全講演会」を実施した。

地域との連携では、武蔵野市や三鷹市主催の催しへのモルモットふれあいコーナーの出張を行った。また、地元吉祥寺のいくつかの商業施設との連携企画も実施し、動物園事業の普及啓発に努めた。例年実施している文化園コンサートは、未就学の子どもでも楽しめる内容として31年2月に4回、どうぶつえん寄席は、春風亭一之輔氏を招いて2月に1回おこなった。

さらに、「リスの小径」が31年5月にオープン30周年を迎えるのを記念して「文化園一春のリスまつり」を31年3月から5月まで開催した。会期中は園内に大きなリスのオブジェを設置し、飼育係のスペシャルガイドやスタンプラリーなどを通して、リス科の動物の生態や当園でのニホンリスの飼育や繁殖への取り組みについて紹介した。また年度末の31年3月23日と24

日には、ボランティアによるリスのフェイスペインティングや工作教室、30周年を記念して制作した「いのかしら りす音頭」を来園者と踊るなどのイベントを賑やかに実施した。

【維持管理・園内サービス】

動物園（本園）では、樹林地管理計画に基づき、表門周辺の樹木剪定、松の樹勢回復を実施するとともに、水生物園の樹木診断を実施した。

管理事務所の救護・授乳室入口を自動ドアにすることで車椅子やベビーカーでも利用しやすくし、野鳥の観察展望台ではスロープのバリアフリー化により、利便性の向上を図った。

また、ニホンカモシカ放飼場前のドウダンツツジ等の植栽を、高低差をつけた敷石とハイビヤクシンの植栽に変更し、生息環境を連想させる空間づくりを行った。

冬季に園路が暗く歩行困難となるアトリエ館周辺に園路灯を設置し、安全を確保した。

高木の樹木に対しては年間4回の総点検を実施し、支障枝・腐朽等を早期に発見し処理を行うことで、お客様の安全確保を行っている。

園内の植物の見どころを掲載した「花ごよみ」を園内及びホームページに掲載したほか、竹垣のスペシャルガイドやシャクナゲガイドを行い、園の魅力向上に努めている。

新たな試みとしては、秋の開園時間延長を10月6日と7日に井の頭自然文化園として初めて実施した。

野外彫刻のライトアップや彫刻園ミニコンサートなど、魅力的なイベントを開催することにより、彫刻園のPRと来園機運の向上に努めた。

また、夏季における園内での暑熱対策の一環として、正門にミスト装置を設置したほか、噴霧器を背負った職員が園内を練り歩き、熱中症への注意を呼びかける熱中症予防隊の活動など、来園者への涼感の演出及びサービスを行った。

案内接客スタッフの接客力向上のため、外国人来園者対応を念頭においた英会話講習を継続実施したほか、映像通訳タブレット端末を有効活用した。

園内の売店では、季節ごとにシーズン商品の導入や園のイベントに連動した商品開発を行うなど、利用者ニーズに応えられるよう努めた。

併せて、冬季の来園者の防寒対策として、2号売店こもれび横に大型テントを設置した。

Ⅱ. 事業実績

〔１〕動物飼育及び展示業務

１. 展示動物の収集・管理

（１）動物収集業務

国内外の飼育動物の情報収集に努め、動物交換、贈与、共同繁殖のための動物貸借（BL：ブリーディングローン）等により動物の導入を積極的に行った。

【主な収集動物】

園名	種名	数量	区分	摘要
上野	スマトラトラ	1	借受	八木山動物公園 (みさき公園より来園)
	マヌルネコ	1	贈与	Rostislav Shilo Novosibirsk Zoo (ロシア)
	オカピ	1	贈与	San Diego Zoo Safari Park (USA)
	ライチョウ	1	借受	環境省(富山市ファミリーパークより来園)
	テングキノボリヘビ	1	贈与	世界淡水魚水族館
多摩	コアラ	1	借受	埼玉県こども動物自然公園
	ハタネズミ	2	贈与	富山市ファミリーパーク
	ツクシガモ	1	贈与	のいち動物公園
	ニジキジ	1	借受	天王寺動物園
	ニホンコウノトリ	2	交換	大森山動物園
葛西	フェアリーペンギン	1	借受	長崎ペンギン水族館
	ランプサッカー	2	交換	カテガットセンター(デンマーク)
	ユメナマコ	1	借受	海洋研究開発機構
	イソコモチクモヒトデ	40	贈与	金沢大学
	アカクラゲ	1	交換	新江ノ島水族館
井の頭	ミーアキャット	1	贈与	京都市動物園
	ホンドギツネ	1	交換	東武動物公園
	ニホンイノシシ	2	贈与	弘前市弥生いこいの広場
	ニホンカモシカ	1	贈与	盛岡市動物公園
	ミゾゴイ	2	贈与	宮崎市フェニックス自然動物園

(2) 動物管理業務

動物台帳の管理を適正に行ったほか、国内外における稀少種血統登録への参画や、90カ国で1,000以上の動物園水族館等が加盟するSpecies360（旧称:国際種情報システム機構）の会員として、動物学情報管理システム（ZIMS）を用いて世界中の園館と動物情報を共有する等、適切な個体群管理に取り組んでいる。

【展示動物飼育数】（平成 31年 3月31日現在）

園名	類	目	科	種	点	備 考
上 野	哺 乳 類	20	62	114	1,131	
	鳥 類	20	52	124	562	
	は 虫 類	5	32	76	299	
	両 生 類	2	18	40	568	
	魚 類	7	7	10	263	
	無 脊 椎 動 物	4	4	5	176	
	計	58	175	369	2,999	
多 摩	哺 乳 類	10	30	60	673	
	鳥 類	17	26	93	1,084	
	は 虫 類	1	4	5	29	
	両 生 類	2	5	7	111	
	魚 類	2	2	6	12	
	無 脊 椎 動 物	24	58	119	21,978	昆虫綱ハチ目の社会性昆虫1科2種8群含む
	計	56	125	290	23,887	
葛 西	哺 乳 類	0	0	0	0	
	鳥 類	5	5	9	276	
	は 虫 類	1	1	2	13	
	両 生 類	2	6	10	317	
	魚 類	26	132	498	12,468	
	無 脊 椎 動 物	63	165	437	46,036	
	計	97	309	956	59,110	
井の頭	哺 乳 類	7	18	34	477	
	鳥 類	16	26	68	288	
	は 虫 類	2	6	9	41	
	両 生 類	2	8	11	488	
	魚 類	8	12	40	2,207	
	無 脊 椎 動 物	7	13	15	557	
	計	42	83	177	4,058	
合 計					90,054	

2. 飼育展示・調査研究

(1) 日常飼育業務

動物の健康と飼育環境管理を適正に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により、動物の特性を引き出すための展示改善を積極的に行った。

① 主な繁殖動物

園名	動物名	出産・孵化数				備考
		オス	メス	不明	計	
上野	ツチブタ			1	1	
	スンダスローロリス	1	1	1	3	生存数2
	ライチョウ	2			2	生存数1
	クマタカ	1			1	
	イボイモリ			20	20	生存数20
多摩	ボルネオオランウータン	1			1	
	チーター	4	1		5	
	アムールトラ	1	2		3	生存数1
	トウホクノウサギ	1	1		2	生存数1
	マガン		1		1	
葛西	フェアリーペンギン			7	7	生存数6
	ミナミイワトビペンギン			6	6	生存数4
	トビハゼ			13	13	
	ニホンアカガエル			20	20	生存数20
	セイルフィンスカルピン			35	35	
井の頭	ヤクシカ			3	3	生存数2
	フンボルトペンギン			2	2	育成数1
	オオコノハズク			4	4	
	ヨシガモ			2	2	
	オオハクチョウ			3	3	

② 主な展示改善

園 名	主な展示改善の件名	内 容
恩賜上野動物園 合計30件	ライチョウの初公開	日本の鳥Ⅰ展示場において、衝突防止やストレス軽減を目的に天井ネットやマジックフィルム設置などの改修を行い、平成30年3月15日より、ライチョウの一般公開（初）を開始。
	クロサイのエンリッチメント	ヒガシクロサイ放飼場においてブイ（浮標）を加工したパズルフィーダーを設置し、葉つき枝を吊るして給餌するなどのエンリッチメントを実施。
	子ども動物園ヤギ展示の場改善	雨除けのためテントを設置していたヤギ放飼場に、動物を収容のできる小屋を制作した。これによりヤギの飼育環境が改善されるとともに、収容後の動物の様子も来園者が観覧できるようになった。
多摩動物公園 合計16件	モウコノウマ舎におけるバチェラーグループ初展示	旧モウコノウマ舎において、モウコノウマオス群れの展示「バチェラーグループ」を始めて再現。
	ドラゴンヘッドキリギリス初展示	昆虫園「外国産昆虫コーナー」においてドラゴンヘッドキリギリスを初展示。また、孵化した幼虫も併せて展示を行った。
	ライオン放飼場用ミストシステム	改修工事期間中のライオン仮放飼場に、夏季の酷暑対策としてミストシステムを設置。
葛西臨海水族園 合計14件	ユメナマコの初展示	葛西が運営協力した海洋研究開発機構の体験航海時に採集されたユメナマコを、トピック水槽で初展示した。
	特設展示「水辺に生きる草」田んぼ展示	「水辺の自然」エリア「田んぼ」展示を更新し、ミナミメダカやドジョウなどの魚類、イネとミズアオイなどの水田で見られる湿地の植物を展示した。
	特設展示「海のゆりかご」	広く浅い水槽で、リュウキュウスガモなどの海草とイシサンゴを展示するとともに、そこにくらす魚類の幼魚や無脊椎動物を展示し、サンゴ礁の浅瀬を再現した。
井の頭自然文化園 合計7件	武蔵野ハビタットにおけるニホンイノシシの新規展示	柵の改修、あずまやの設置等を行い、武蔵野ハビタットエリアにて56年ぶりに日本産動物であるニホンイノシシの展示を開始。
	ミゾゴイの新規展示	ミゾゴイは昭和34年以降、63年までに1羽ず

園 名	主な展示改善の件名	内 容
		つを飼育された記録があるが、全て傷病保護由来で短命となっていた。11月に新規展示を開始した雌雄は動物園での繁殖個体のため、安定的な展示継続が可能とり、今後の繁殖が期待される。
	アムールハンティング	アムールヤマネコの展示ケージ天井から「ハンティングバー」を吊るし、肉片を付着して給餌することで、アムールヤマネコの優れた跳躍能力を公開。

(2) 研究成果の発表

動物園で得られた野生動物や教育普及活動に関する情報や研究成果等について、研究会等で積極的に発信した。

① 恩賜上野動物園（合計28件）

発表内容	担 当	摘 要
ヒガシクロサイの採血における無条件強化子に触刺激を用いたハズバンダリートレーニング	藤岡 紘	横浜市立よこはま動物園（第12回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会）
ミヤコドリの人工孵化・育雛の経過報告	大久保 梨奈	羽村市生涯学習センター（第13回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会）
ハズバンダリートレーニングを導入したカピバラの飼育管理について	児島 匠	仙台市八木山動物公園（第14回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会）
雌性生殖器腫瘍のニシゴリラにおけるQOL を考慮した飼育管理の一例	田村 由美	仙台市八木山動物公園（第14回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会）
動物園におけるアルファキサロンを用いた麻酔の検討	平野 雄三	とかちプラザ（第66回動物園技術者研究会）
ジャイアントパンダ“シャンシャン”の誕生	廣田 敦司	どうぶつと動物園（2018春号）
ニホンザルの餌を考える	青木 孝平	どうぶつと動物園（2018夏号）
高山に生息する「神の鳥」ライチョウを都会で飼う	高橋 幸裕	どうぶつと動物園（2018夏号）
ニシゴリラ“リキ”の誕生	田村 由美	どうぶつと動物園（2018秋号）

発表内容	担 当	摘 要
14年ぶりに育ったカワセミ	小川 美紀	どうぶつと動物園 (2019冬号)
ニシアフリカコガタワニの繁殖、新たなステージへ	齊當 史恵	どうぶつと動物園 (2019冬号)
The current status and actions due to improve of Aye-aye husbandry at Ueno Zoo	中村 壮登	イギリス・ジャージー動物園(アイアイ国際飼育管理ワークショップ)
動物園あかぼっぽ最新情報	坂下 涼子	小笠原村母島村民会館体育館 (あかぼっぽの日の集い)
都立動物園におけるアカガシラカラスバトの保全活動 (ポスター発表)	坂下 涼子	母島村民会館体育館・小笠原世界遺産センター (みんなの近くの世界遺産<返還50周年記念講演会>)
アジアゾウに見られた体調不良の一例	杉森 理	京都市国際交流会館 (第28回ゾウ会議)
アメリカドクトカゲにみられたクリプトスポリジウム感染症集団発生例	平野 雄三	上野動物園 (第30回日本動物園水族館両生類爬虫類会議) ”
0-3歳児における動物介在教育の可能性	鳥飼 香子	島根県立青年の家 サン・レイク (第59回日本動物園水族館教育研究会)
上野動物園 乳幼児プログラムの紹介 (特集: 未就学児に向けた科学館・博物館・動物園における取り組み事例)	橋川 真弓	全科協ニュース Vol49 No1 (全国科学博物館協議会)
Artificial incubation and hatching of the West African dwarf crocodile eggs	齊當 史恵	コンプレス・コンベンションセンター (第26回SEAZA)
徳之島由来のイボイモリの飼育下繁殖	齋藤 祐輔	上野動物園 (第30回日本動物園水族館両生類爬虫類会議)
ミヤコカナヘビの生息域外保全について	田辺 信吾	上野動物園 (第30回日本動物園水族館両生類爬虫類会議)
ニシアフリカコガタワニのオスの孵化温度推定の試み	齊當 史恵	上野動物園 (第30回日本動物園水族館両生類爬虫類会議)
海外からの来園者に向けた日本産動物紹介の取り組み	佐藤 恵	島根県立青年の家 サン・レイク (第59回日本動物園水族館教育研究会)
日本の野生動物に着目した来園者参加型イベントの実施について	宇野 なつみ	島根県立青年の家 サン・レイク (第59回日本動物園水族館教育研究会)
飼育下繁殖技術の向上への取り組み② 人工孵化・育雛	高橋 幸裕	妙高市ふれあい会館 ふれあいホール (第18回ライチョウ会議新潟妙高大会)

発表内容	担 当	摘 要
動物園におけるライチョウ生息域外保全への取り組み	高橋 幸裕	ふじのくに地球環境史ミュージアム・上野動物園（ライチョウ勉強会）
動物園における学芸員の役割とスキルアップ	鈴木 仁	博物館研究 Vol. 53 No. 10 （2018年10月号）
第66回全国博物館大会報告 分科会5「博物館における環境教育」	鈴木 仁	博物館研究 Vol. 54 No. 3 （2019年3月号）

② 多摩動物公園（合計16件）

発表内容	担 当	摘 要
サバンナエリアの獣舎の建て替えに伴う動物の移動について	齊藤 美和	横浜市立よこはま動物園多目的ルーム（第12回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会）
多頭飼育管理における獣医学的処置とその課題	杉本 悠真	横浜市立よこはま動物園多目的ルーム（第12回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会）
オガサワラシジミの累代飼育にたどりつくまで	石島 明美	どうぶつと動物園（2018夏号）
保全センターに於ける配偶子採取および保存の取組	倉持 浩	野生動物保全繁殖研究会
直腸脱を起こしたインドサイの治療例	吉本 悠人	とかちプラザ大集会室（第66回動物園技術者研究会）
多摩動物公園でのチンパンジー飼育における安全管理対策について	佐藤 澄音	とかちプラザ大集会室（第66回動物園技術者研究会）
クロツラヘラサギの保全について	石井 淳子	日本家禽学会誌55巻J2号
トウホクノウサギの繁殖について	河本 彩花	羽村市生涯学習センターゆとろぎ（第13回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会）
イワシャコ群に見られた <i>Capillaria</i> 感染症	戸田 光亮	第22回鳥類臨床研究会大会
オガサワラシジミの累代飼育	石島 明美	多摩動物公園（平成30年度全国昆虫施設連絡協議会 研究協議）
域外保全の重要性～飼育施設での取り組みと課題～	中島 亜美	コウノトリ保全セミナー「あなたの街にもコウノトリが！～一見えてきたコウノトリ保全事業の課題と展望」
博物館における環境教育、学校教育との連携～イモリの保全活動の一環として	荒井 寛	全国博物館大会
動物園ならではの「工作教室」を目指して	半澤 典子	第59回日本動物園水族館協会教育研究会（島根県立青少年の家サン・レイ

発表内容	担 当	摘 要
		ク)
先生と子どもの学びを支援するー昆虫を用いた教員向け研修プログラムについてー	山崎 彩夏	第59回日本動物園水族館協会教育研究会（島根県立青少年の家サン・レイク）
ウンチやオシッコから動物たちの“恋愛事情”を探る	倉持 浩	どうぶつと動物園（2019冬号）
オガサワラシジミの累代飼育	石島 明美	昆虫園研究 第20巻（全国昆虫施設連絡協議会発行）

③ 葛西臨海水族園（合計19件）

発表内容	担 当	摘 要
外科処置後に展示可能となった ケルプ グリーンリングの一例	吉澤 円	ビア・ワークス千歳（平成30年度関東東北・北海道ブロック水族館飼育技術者研究会）
ふれあい展示水槽「タッチン&フィーリン」におけるサメ・エイ類の健康管理の取り組みについて	柳下 悠	ビア・ワークス千歳（平成30年度関東東北・北海道ブロック水族館飼育技術者研究会）
フンボルトペンギンの受精卵の有効活用事例	川上壮太郎	羽村市生涯学習センター（第13回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会）
The Conservation Activities for Amphibians in Tokyo by Ueno Zoological Gardens, Inokashira Park Zoo, Tama Zoological Park and Tokyo Sea Life Park	中沢 純一	ふくしま海洋科学館（第10回世界水族館会議）
都立動物園水族園における両生類の保全活動	中沢 純一	上野動物園（第30回両生類爬虫類会議）
特別支援学校、病院、社会福祉施設等に特化した移動水族館	戸村奈実子	兵庫県立人と自然の博物館（第3回全日本博物館学会・博物館教育研究会）
ミナミイワトビペンギンの受精率改善に向けた取組	野島 大貴	おびひろ動物園（第66回動物園技術者研究会）
2018年度ケイマフリ繁殖生態調査	野島 大貴	札幌第一合同庁舎（平成30年度ウミガラス保護増殖検討会）
Cooperative Effort for the In-situ and Ex-situ Conservation of the Common Murre	野島 大貴	ふくしま海洋科学館（第10回世界水族館会議）
水族園でウミガラスを飼育する～飼育環境の改善と生息域内保全への貢献～	野島 大貴	どうぶつと動物園

発表内容	担 当	摘 要
海鳥の着水時間を増加させる採食エンリッチメントの実施	野島 大貴	東京大学（エンリッチメント大賞2018）
葛西臨海水族園のミナミイワトビペンギンで発生した悪性黒色腫の3例	吉澤 円	江戸川区総合文化センター（ペンギン会議）
Efforts for Deep-Sea Creature Exhibition and the New Discovery of Their Ecosystem	小味 亮介	ふくしま海洋科学館（第10回世界水族館会議）
The spawning and hatch of juvenile of the deep sea, cephalopod <i>Opisthoteuthis depressa</i>	小味 亮介	St. Petersburg, Florida, USA (Cephalopod International Advisory)
小笠原諸島におけるユウゼンの生態 ② 配偶システムとなわばり	松村 哲	京都大学理学部（日本動物行動学会第37回大会）
Field Survey of the Wrought Iron Butterflyfish on the Ogasawara Islands	松村 哲	ふくしま海洋科学館（第10回世界水族館会議）
Capture of the giant Antarctic toothfish in Lütow-Holm Bay (East Antarctica) with notes on the effects of exhibition in aquarium.	松村 哲	国立極地研究所（第8回極域科学シンポジウム）
大人のための海鳥学入門	西村 大樹	江戸川区総合文化センター（ペンギン会議）

④ 井の頭自然文化園（合計3件）

発表内容	担 当	摘 要
Introduction of Inokashira Park Zoo	栗原 拓也	第26回SEAZA年次総会
動物園における大学生向けアクティブラーニング	馬島 洋	動物観研究No. 23（19-26）：2018
Conservation and breeding of Tsushima leopard cats by Inokashira Park Zoo	唐沢 瑞樹	”琉球大学熱帯生物園研究センター西表 研究施設（Asian Wildcat Conservation Workshop 2018）

（3）共同研究

大学や研究機関と協力し、動物学、獣医学等の学術的な見地から共同研究を進めた。

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
東京大学博物館	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京大学大学院農学生命科学研究科	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
首都大学東京	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
日本獣医生命科学大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京農工大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所	東京動物園協会	イモリの保全及びその生態学的研究
独立行政法人国立科学博物館	東京動物園協会	動物等の研究
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所	東京動物園協会	連携・協力に関する協定
東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター	東京動物園協会	海洋教育促進
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会	動物園水族館動物に係る研究及び教育
国立研究開発法人水産研究・教育機構	東京動物園協会	包括連携協定
ウナギ種苗研究グループ	東京動物園協会	ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システム実証事業研究
東京大学大学院農学生命科学研究科	恩賜上野動物園	希少動物の獣医衛生に関する研究(獣医病理学)
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	恩賜上野動物園	ライチョウの域外飼養技術の開発に関する研究－飼育飼料の検討－
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	恩賜上野動物園	アカガシラカラスバトの域外飼養技術に関する研究－飼育飼料の検討－
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	恩賜上野動物園	飼育飼料成分のデータベース化による動物園動物栄養管理システムの構築に関する共同研究

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
京都大学霊長類研究所	恩賜上野動物園	ジェントルキツネザル腸内細菌叢の遺伝解析に関する共同研究
京都大学霊長類研究所	恩賜上野動物園	ジェントルキツネザルのタケ食適応と味覚受容体の進化に関する共同研究
京都大学霊長類研究所	恩賜上野動物園	ハリモグラの化学感覚受容体遺伝子の解析に関する共同研究
日本獣医生命科学大学 獣医臨床繁殖学教室	恩賜上野動物園	ジャイアントパンダをはじめとする希少野生動物の精液凍結技術の開発
帝京科学大学	恩賜上野動物園	教育プログラム改善を目的とした利用者調査に関する共同研究
岐阜大学応用生物科学部	恩賜上野動物園	希少動物の保全繁殖
東京大学 医科学研究所	恩賜上野動物園	ハダカデバネズミ iPS 細胞を用いた異種間キメラの研究
東京大学 大学院農学生命科学研究科	恩賜上野動物園	動物園動物の性比に影響する要因の解明
岐阜大学応用生物科学部	多摩動物公園	希少動物の繁殖生理の内分泌モニタリング/多摩動物公園における希少動物の性ホルモン分析技術の推進
東京都健康安全研究センター	多摩動物公園	サル類の腸管寄生原虫に関する研究（検査・駆除対策）
日本工業大学	多摩動物公園	モグラの地中掘削行動の機構学的解析
麻布獣医学園	多摩動物公園	ネコ科の瞳の形状に関する遺伝子解析
横浜市環境創造局繁殖センター	多摩動物公園	希少動物の保全に関わる試験研究
京都大学野生動物研究センター	多摩動物公園	オランウータンの子の離乳過程と母親のホルモン動態の関係
カマキリ研究グループ	多摩動物公園	外来種「ムネアカハラビロカマキリ」に関する研究
京都大学野生生物研究センター	多摩動物公園	ユキヒョウの仔および成獣の繁殖生理に関する研究
河原 淳	多摩動物公園	トウキョウトガリネズミ繁殖生態研究
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	多摩動物公園	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
京都大学 大学院理学研究科	多摩動物公園	飼育下オランウータンにおける雌の陰部膨張とホルモン動態の関係
朝日大学歯学部	多摩動物公園	オランウータンの口腔疾患の実態解明
京都大学野生生物研究センター	多摩動物公園	オランウータンの出産間隔調整に関するメカニズムの解明
国際農林水産業研究センター	多摩動物公園	バッタの遺伝子情報基盤の整備
日本大学生物資源科学部	葛西臨海水族園	水生生物における包括的魚病診断調査及び防疫法の確立
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所	葛西臨海水族園	南極海に生息する魚類の繁殖および摂餌生態に関する共同研究
東北大学大学院生命科学研究所 器官形成分野	葛西臨海水族園	フンボルトペンギン胚における特徴的四肢形態の発生操作
電力中央研究所 株式会社イワキ	葛西臨海水族園	大規模水槽向け脱窒装置及び小型水槽用脱窒モジュールに関する共同研究
東京大学大気海洋研究所	葛西臨海水族園	ウミスズメ科の水中採食生態の解明に関する共同研究
東京海洋大学	葛西臨海水族園	深海生物共同研究
株式会社海遊館	葛西臨海水族園	ペンギン類人工繁殖に関する共同研究
東京大学	葛西臨海水族園	映像によるクロマグロの行動解析技術の研究開発に関する共同研究
日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科 水圏生物病理学研究室	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園の飼育する水生生物疾病研究に関する協定
東京大学	葛西臨海水族園	マハゼのヘネガヤ症研究に関する協定
国立極地研究所 生物圏研究グループ	葛西臨海水族園	ペンギン科およびウミスズメ科の視覚に関する研究
茨城大学 生体分子機能工学科	葛西臨海水族園	飼育下エトピリカの遺伝子解析
株式会社共立電照 株式会社共ショウ	葛西臨海水族園	大型水槽用 LED 照明の開発

提 携 先	提 携 園	研究テーマ
岐阜大学	井の頭自然文化園	アムールヤマネコの繁殖生理に関する共同研究
日本獣医生命科学大学 獣医学科比較動物医学 教室	井の頭自然文化園	井の頭自然文化園におけるニホンアナグマの飼育技術の開発に伴うアナグマの環境エンリッチメントに関する共同研究
日本獣医生命科学大学 獣医臨床繁殖学教室	井の頭自然文化園	希少野生ネコ科動物における人工繁殖技術の研究

(4) 飼育展示・教育普及研究会の開催

園内及び4園相互での情報交換と共有化を積極的に進めるとともに、研究発表等に積極的に参加することによる職員の能力向上を図るため、各園で飼育展示・教育普及担当者による研究会を毎月開催した。

3. 動物病院業務

飼育職員と連携して病気等の予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行った。また、検疫業務、病理解剖、検体の保存等を行った。

(診療件数及び検疫件数)

園 別	年間診療件数		年間検疫件数	
	治療	死亡	種数	頭数
恩賜上野動物園	7,477	137	38	111
多摩動物公園	7,051	68	29	58
葛西臨海水族園	1,261	64	0	0
井の頭自然文化園	4,178	60	29	58

※葛西については、上野の動物病院においても実施。

4. 施設維持管理・園内サービス

(1) 園内施設・設備の維持管理

① 定常的維持管理

施設や設備を適切に保守し、利用者の安全と快適性を確保するために、以下の園内施設の維持管理業務を実施するとともに、照明設備のLED化及び空調・ポンプ類のインバーター化による電力使用量削減に取り組んでいる。

園 名	主 要 施 設	主要維持管理業務
恩 賜 上 野 動 物 園	- 敷地面積：144千㎡ - パンダ舎、ホッキョクグマとアザラシの海、クマ舎、ゾウ舎、アイアイのすむ森 等 - 両生爬虫類館 - 管理センター - 不忍池	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） - 不忍池水質管理 - 設備点検 - 保護管理（植込地、花壇） - 危険樹点検対応 他
多 摩 動 物 公 園	- 敷地面積：601千㎡（含む七生公園） - オランウータン舎、コアラ館等 - ライオン園 他 - 昆虫生態園 - 丘陵地	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、芝生地、花壇） - 危険樹点検対応 他
葛 西 臨 海 水 族 園	- 敷地面積：86千㎡ - 水槽数：47 - マグロ水槽（2,200t）、ペンギン池 他 - ポンプ（水処理用244台、給排水用53台）	- 設備補修（冷凍機、水処理 他） - 施設補修（水槽、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（中央監視、水処理、展示システム、排水処理、オゾン設備 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、芝生地、花壇） - 危険樹点検対応 他
井 の 頭 自 然 文 化 園	- 敷地面積：116千㎡ - 大放飼場 - 彫刻館 - リスの小径 - 資料館 - 水生物館	- 設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） - 補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） - 設備保守（機械、水処理、放送 他） - 設備点検 - 保護管理（植込地、花壇） - 危険樹点検対応 他

② 集中的維持管理

設備補修や地球温暖化対策等を行うとともに、動物舎等について、集中的な修繕を行った。

園名	No.	修 繕 施 設	概 要
上 野	1	給水設備	両生爬虫類館脇井戸設備補修
	2	照明設備	ゴリラ舎照明補修
	3	園路	西園園路舗装補修
	4	建物	日本の動物舎トイレ及び案内所授乳室改修
多 摩	1	給水設備	オランウータン舎加圧ポンプ補修
	2	建物	コレクション外壁及びはやし広場トイレ改修
	3	植込地	アフリカゾウ及びオーストラリア園花壇改修
	4	動物舎	モウコノウマ放飼場改修
葛 西	1	循環設備	循環ポンプ及び配管設備補修
	2	車両消毒設備	車両消毒装置設置
	3	照明器具	淡水生物館照明設備補修
井の頭	1	給水設備	ゾウ舎裏井戸設備補修
	2	植込地	ニホンカモシカ舎植栽改修
	3	建物	管理事務所内救護授乳室の出入口自動ドア化

(2) 園内の保安及び環境美化

① 園内巡回警備

巡回警備による整理・誘導、防犯等、入園者の安全に配慮して実施した。繁忙期には増員により対応した。

② 園内清掃及び廃棄物搬出

園内美化を図り、園内の清掃及び収集したゴミ等の廃棄物を園外へ搬出した。また、搬出した寝糞等は専門施設においてリサイクルし、肥料化した。

(3) 入園券の売改札及び利用案内・園内サービス

① 入園券の売改札

入園券の売改札、年間パスポートの販売を行った。

【入園者数】

(単位：人)

区 分			上野	多摩	葛西	井の頭	合計	摘 要
有 料	個 人	一 般	2,591,905	363,465	539,443	378,157	3,872,970	
		中学生	69,053	1,757	10,981	646	82,437	
		65歳以上	263,317	34,233	39,348	43,635	380,533	
		計	2,924,275	399,455	589,772	422,438	4,335,940	
	団 体	一 般	175,040	47,321	60,625	20,970	303,956	20人以上
		中学生	1,735	34	919	208	2,896	〃
		65歳以上	8,958	517	6,530	1,511	17,516	〃
		計	185,733	47,872	68,074	22,689	324,368	
	小 計		3,110,008	447,327	657,846	445,127	4,660,308	
無 料	個 人	小学生以下	1,310,388	265,727	516,617	264,122	2,356,854	
		中学生	22,107	4,992	24,221	5,806	57,126	都内在住在学
		計	1,332,495	270,719	540,838	269,928	2,413,980	
	団 体	幼 児	80,446	55,836	32,120	26,631	195,033	
		小学生	71,739	54,212	49,274	18,022	193,247	
		中学生	69,143	2,372	9,403	504	81,422	
		計	221,328	112,420	90,797	45,157	469,702	
	特 免		141,506	27,416	39,411	31,614	239,947	身体障がい者等
	その他		159,210	56,654	68,189	55,435	339,488	無料開園日等
	小 計		1,854,539	467,209	739,235	402,134	3,463,117	
	合 計		4,964,547	914,536	1,397,081	847,261	8,123,425	

【年間パスポート販売状況】

園 名	販売実績	摘 要
恩賜上野動物園	38,562枚	一般2,400円、65歳以上1,200円
多摩動物公園	6,601枚	〃
葛西臨海水族園	3,639枚	一般2,800円、65歳以上1,400円
井の頭自然文化園	12,323枚	一般1,600円、65歳以上 800円
合 計	61,125枚	

② 有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収

園内での写真撮影や集会所の使用申請の受付事務と入園料、使用料、占用料の徴収及び東京都への納付事務を行った。

【入園料金の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
恩 賜 上 野 動 物 園	1,579,608,760円	大人600円、中学生200円、65歳以上300円
多 摩 動 物 公 園	230,828,060円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	422,898,660円	大人700円、中学生250円、65歳以上350円
井の頭自然文化園	142,264,220円	大人400円、中学生150円、65歳以上200円
合 計	2,375,599,700円	

【占用料・使用料の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
恩 賜 上 野 動 物 園	131,864円	占用料（写真撮影等）
多 摩 動 物 公 園	69,325円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	98,338円	〃
井の頭自然文化園	663,020円	占用料・使用料（資料館・童心居）
合 計	962,547円	

③ 利用案内・園内サービス

園内における利用者案内、迷子相談、園内放送、救急救護、身障者用車椅子の貸出等のサービスや拾得物・遺失物対応を実施したほか、園外からの電話による問い合わせに対応、園内案内図、案内板の更新を行った。また、GWや春休みの繁忙対策として、上野動物園、多摩動物公園で仮設トイレを設置した。

東京動物園ボランティアーズのサービスガイドグループとの協働により、園内案内サービスや園内催物を実施した。

【園内利用案内】

(単位：件)

園 名	迷 子	放 送	救 護	車椅子	遺失物届	拾得物届
上 野	665	5,435	904	2,252	655	4,328
多 摩	55	3,337	355	331	545	4,839
葛 西	186	1,696	205	531	568	2,694
井 の 頭	157	336	300	109	422	2,051
合 計	1,063	10,804	1,764	3,223	2,190	13,912

(4) 利用促進・PR活動

ウェブサイトや各種印刷物・広告媒体等により、利用促進活動を行った。また、都立動物園・水族園の魅力とサービス向上を目的とするVisit Zoo事業推進のため、東京都と協力しながら、各種イベント、開園時間の延長、開園日数の拡大等、様々な取り組みを行った。

【利用促進・PR】

事 項	摘 要
ウェブサイト	・ウェブサイト「東京ズーネット」を通じて、動物の最新ニュースや動画、イベント情報等を多くの人に向けて発信した。 ・総合トップ及び各園トップに、東京動物園協会野生生物保全基金への協力を呼びかけるバナーを設置した。 ・「保全への取組」ページに、平成30年度に策定された第2次ズーストック計画を紹介する「ズーストック計画」を新規作成した。 ・多摩動物公園が開園60周年記念で実施した「月間動物」イベントをアピールするため、スライドショーに月替わりで月間動物を掲載した。 ・葛西臨海水族園にて実施しているユニークベニュー事業の紹介ページを新規作成し、案内資料をダウンロードできるようにするとともに、紹介動画を掲載した。 ・英語、中国語（繁体字）、韓国語を含め、各園の開園カレンダーに、入園及び年間パスポート販売の終了時間を加えた。 ・夏季限定の特設サイト「この夏、こどもといきもの体験 Visit Zoo Summer 2018」を公開し、各園の夜間開園情報や豊富なイベント情報をまとめて紹介した。 ・冬の動物園・水族園の魅力を集めた特設サイト「VisitほっとZoo 2019」を12月下旬から公開し、各園の見どころや特別イベント、「電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー」についてアピールした。 ・上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」では、パンダに関する情報を掲載したほか、ジャイアントパンダ保護サポート基金についても広くアピールした。 ・ウェブサイト閲覧者が安心して利用できる環境を整備するため、「東京ズーネット」及び「UENO-PANDA.JP」にSSL通信を適用（常時SSL化）してセキュリティの向上を図った。 ・Twitterによる4園の情報発信を通じて、即時性のある情報をタイムリーに配信した。
広 告 物	・夏の夜間開園、秋のインスタグラムでの写真共有キャンペーン「いきもの体験Instagramキャンペーン #tokyozoogram」、「VisitほっとZoo2019」等のイベント周知、集客に向けて、電車内中吊り広告、WEBバナー広告、新聞広告、劇場でのうちわ配布（東京ドームシティシア

事 項	摘 要
	ターGロッソ)等を適宜、実施した。 ・インバウンド対策として、京成線、東京モノレールでの電車内広告(中吊り)、京成スカイライナーでのビジョン掲出を実施した。 ・上野動物園では園の魅力をPRするため、都バスでのラッピングバスの運行や、夏休みと冬休み期間に合わせた都営地下鉄各駅でのポスター広告掲出等を実施した。 ・多摩動物公園では、開園60周年イベント周知のための京王線での動画広告掲出や、サマーナイト@Tama Zoo、アフリカフェアや干支展の実施に合わせたPRチラシ・ポスターの制作、掲出等を実施した。 ・葛西臨海水族園では、「Night of wonder」等のイベント開催に合わせて、沿線駅においてポスターの掲出等を実施した。 ・井の頭自然文化園では、最寄り駅前の大型ビジョンでの広告や、3月に実施した「春のリスまつり」周知のためのバス内中張り広告掲出等を実施した。
ダイレクトメール	幼稚園・保育園、学校、福祉施設、ホテル等 (2園2,105件)
そ の 他	・繁忙期における休園日の臨時開園(上野6日、多摩6日、葛西6日、井の頭4日)、開園時間延長(上野13日、多摩16日、葛西11日、井の頭9日)を実施した。 ・Visit Zoo事業に関する4園合同のキャンペーンとして、両国にぎわい祭りへのブース出展、夏の夜間開園、お出かけ情報サイト「いこーよ」とのコラボ企画であるInstagramを活用したイベント、冬には4園の冬の魅力を伝える企画「VisitほっとZoo2018」を開催した。また、「VisitほっとZoo2018」では、民間事業者と連携して、「電車であわろう!動物園・水族園スタンプラリー」を開催した。 ・訪日来園者の動向を把握するため、Wi-Fi電波観測による来園者国別推計調査を実施した。 ・マーケティング計画作成のため、平成29年度に行った調査結果を踏まえ、井の頭自然文化園の定性調査を行った。 ・外国人観光客向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット(英語・中国語[繁体・簡体]・韓国語及び日本語)を東京都観光案内所等で配布した。

(5) 広報広聴

園内動物の繁殖や催物等についての広報発表、取材対応のほか苦情や意見への対応を行った。

① 主な広報発表

園 名	発表日	件 名
上 野	5月24日	表門（東園の入口）の位置を一時的に変更します
	11月1日	11月13日からジャイアントパンダの「シャンシャン」がひとり立ちするための準備を始めます
	11月22日	スマトラトラの「ブラン」が来園します
	2月1日	ニホンライチョウを公開します
	2月20日	ニシゴリラの「ナナ」よ やすらかに
	その他、合計45件	
多 摩	4月12日	開園60周年記念「月間動物」イベントを開催します！
	7月2日	オランウータンの赤ちゃん誕生&名前投票!!
	7月12日	サマーナイト@Tama Zoo 2018 トラもめざめる夜の動物園ー
	9月26日	「第4回都立動物園アフリカフェア」開催！ ～野生動物のふるさとアフリカの今とこれから～
	2月14日	動物脱出対策訓練を実施します ～オランウータンが園内に逃げ出した?!～
	その他、合計43件	
葛 西	5月10日	みんなで訓練「お・さ・か・な」大作戦2018 ～もしも葛西臨海水族園で大地震に遭遇したら～ 地震避難訓練参加者募集
	7月12日	夏の特別イベント「Night of Wonder ～夜の不思議の水族園～」
	8月9日	水産研究・教育機構と包括連携協定を締結します
	8月23日	開園記念日イベント「All About MAGURO」
	1月24日	都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会「東京の カエルについて かんガエル」
	その他、合計22件	
井の頭	4月12日	日本産動物講演会「ニホンアナグマを知る～アナグマはクマではありません～」を開催します
	9月13日	ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園
	9月13日	「ヤマネコ祭2018」を開催します！
	11月22日	新年イベント「水族園のお正月2019」
	1月24日	「リスの小径」オープン30周年記念「文化園～春のリスまつり～」を開催します！
	その他、合計22件	

② 苦情・意見への対応

園内に設置した意見箱やホームページ「東京ズーネット」に寄せられた苦情・意見について、関係部署へ周知するとともに対応策を検討し、園内環境やサービス等の改善に努めた。また、データベースを活用して来園者からのご意見ご要望への対応を4園で統一し、サービスの改善・充実を図った。さらに、7月より、主なご意見ご要望についてホームページ「東京ズーネット」に掲載を開始した。

〔２〕野生生物保全業務

「野生生物保全センター」を都立動物園・水族園の野生生物保全活動の中心に位置付け、保全活動、情報収集、調査研究及び普及啓発活動を実施した。

項 目	内 容
動物園内における保全活動 (域外保全)	① ニホンコウノトリ、トキは、多摩動物公園を中心に高度な飼育繁殖技術を活かした継続的な繁殖と個体や卵の移動などにより、野生復帰事業に貢献している。 ② アカガシラカラスバトは、毎年順調に繁殖しており、緊急保護個体を繁殖個体群に取り込む等、飼育繁殖技術も発展し、飼育下個体群形成が順調に進んでいる。 ③ オガサワラシジミは、多摩動物公園で累代繁殖および周年飼育に成功し、持続的な繁殖が期待できる状況になってきた。 ④ ライチョウは、上野動物園や富山市ファミリーパークなどで2015～2016年に野生卵を入手し、それらを育て繁殖に取り組んでいる。血統や性に配慮し、富山市ファミリーパークから個体を搬入、いしかわ動物園、よこはま動物園へ搬出した。また、3月から公開を開始した。 ⑤ 東京産両生類等、希少種の繁殖に継続して成功している。 ⑥ 環境省からの分散飼育の協力要請を受け、小笠原諸島の陸産貝類(カタマイマイ、アナカタマイマイ)の飼育を4園で開始した。関係機関との情報共有を図るとともに、両種の飼育繁殖に取り組んでいる。
フィールドにおける保全活動 (域内保全)	① 多摩市のアカハライモリ生息地において、生息状況調査や生態調査を継続して実施し、生息個体数を増加させることに成功するとともに、地域との連携・環境教育活動を推進している。 ② アカガシラカラスバト野生個体群の遺伝的多様性を解明するため、小笠原自然文化研究所と連携し、ミトコンドリアDNAの解析を実施している。 ③ 多摩動物公園内に生息するアズマヒキガエルの繁殖状況を調査しており、七生公園での産卵を確認した。
生物学技術を応用した保全活動	① DNA解析により、性判別(鳥類・哺乳類)を日常的に行うほか、クロツラヘラサギ等で親子判定を実施する等、繁殖計画の推進に寄与した。また、飼育希少鳥類の遺伝的多様性の解析、メダカやゲンジボタル地域個体群解析、アズマヒキガエルの野外での亜種間交雑状況の調査を継続して行っている。 ② 人工授精技術を用いて、自然交配が期待できないソデグロヅルのペアから有精卵を得る取り組みを継続している。 ③ 性ホルモンを測定し、ツシマヤマネコやチーター、サーバル、アフリカゾウ、ミナミコアリクイ等の繁殖生理解明に役立てている。

調査研究・情報収集	タイで行われたCPSG（国際自然保護連合保全計画専門家グループ）年次総会およびSEAZA総会に職員を派遣し、情報収集を図った。
普及啓発活動	① イモリの保全活動を進めている多摩市の小学校と連携し校外学習の一環として、保全活動について普及啓発を行っている。 ② 一般参加の観察会として、保全に取り組む生物の「トビハゼ観察会」、「アカハライモリの保全現場をたずねる」を実施した。 ③ 葛西臨海水族園で小笠原保全講演会「小笠原の自然環境と保全を実施した。また、父島に職員を派遣して「あかぼっぽの日の集い、あれから10年、これからの10年」において、「あかぼっぽ生息域外保全、10年の取り組み」について報告するとともに、4園の保全活動をポスターで掲示した。 ④ ツシマヤマネコの保全に関する普及啓発として井の頭自然文化園で「ヤマネコまつり」を継続して実施している。 ⑤ 野生生物保全センター講演会「アライグマとどう向き合うか？」を学多摩動物公園で実施した。 ⑥ 水辺保全講演会として、葛西臨海水族園で「東京のカエルについてかんガエル」と井の頭自然文化園で「イモリを調べる・イモリを守る」を開催した。
保全への協力	コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS；任意団体）の構成員として、他の加盟機関と連携し、保全活動を推進した。兵庫県立コウノトリの郷公園と千葉県野田市でのコウノトリの放鳥事業に協力し、有精卵の提供や移送支援を実施している。コウノトリ保全セミナー「あなたの街にもコウノトリが！？ ～見えてきたコウノトリ保全事業の課題と展望～」をIPPMとして開催した。

〔３〕教育普及業務

動物園・水族園における観察や学習等の体験を充実させるために各種プログラムを企画・開催し、生物や環境等の情報を伝えるとともに、教育機関との連携やボランティア団体との協働等を通じて普及活動を推進した。

１．４園連携による幅広い教育普及活動の展開

前年度に引き続き「ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo」を多摩・葛西・井の頭で実施した。上野では、希望者全員を安全に受け入れるため、「ドリームデイ・アット・ザ・ズー in Tokyo」として休園日である８月27日の日中に開催。「大人のための動物園・水族園講座」を４園で開催した。また、昨年度に引き続き、野生生物保全センターが中心となって見学会「アカハライモリの保全現場をたずねる」を実施。小笠原における野生生物保全の重要性を伝えることを目的とし「小笠原の自然環境と保全」講演会を実施した。野生生物保全や生物多様性の重要性を普及するため、様々な企画に４園が連携して取り組んだ。

①連携企画

内 容
・ 障がいをもつ子供とその家族を閉園後に招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー & アクアリウム in Tokyo」を３園で実施（6/2多摩・葛西・井の頭）。上野では、前年度と同様に「ドリームデイ・アット・ザ・ズー in Tokyo」として休園日である８月27日の日中に開催した。 ・ 小学校教員対象「授業に活かせる『動物園・水族園』講座」を４園で実施（７～８月）、葛西では２月に冬の小学校教員対象セミナーを実施した。 ・ 東京教師養成塾を４園で受入れ（７～８月） ・ 「第4回都立動物園アフリカフェア」開催に伴い、４園連携のスタンプラリーを実施。（10/４～10/28） ・ ４園共同企画 中学生以上対象 観察会「アカハライモリの保全現場をたずねる」を東京都多摩市にて実施（10/13） ・ 16歳以上を対象とした「大人のための動物園・水族園講座」を４園で開催（11～12月） ・ 小笠原保全講演会「小笠原の自然環境と保全」を葛西臨海水族園にて実施（１/19）

② Visit Zoo事業における4園連携事業

実施項目	内 容	
春のVisit Zoo フォトスポット 6/7～13	春のVisit Zoo企画として、両国にぎわい祭りでの東京動物園協会ブース出展を皮切りに、各園の人気動物のデザインのフォトスポットを設置。5月中旬から6月中旬にかけて4園巡回型のイベントとして実施した。	
都立動物園・水族園×「いこーよ」コラボ企画。 「いきもの体験 Instagram キャンペーン」 #tokyozoogram 10/12～11/30	都立動物園水族園が子供とお出かけ情報サイト「いこーよ」と共同で開催のキャンペーン。都立動物園内で写真を撮影し、Instagramを使って投稿用ハッシュタグ「#tokyozoogram」とともに投稿し、キャンペーン終了後には、投稿された中から厳選した写真を「いこーよ」サイト内で紹介した。	
Visitほっと Zoo 2019 「みてみよう 日本のいきもの ここがすごい!!」 1/10～3/3	上野	電車でまわろう！動物園・水族園スタンプラリー（1/10～3/3）、うえのdeにつぼん！キーワードラリー（1/10～3/3）、大道芸deほっとZoo!!2019～みてみよう 日本のあそび ここがすごい!～（1/13）、ほっとZoo特別ガイドツアー「日本にすむ動物たち」（1/11、17、2/13、19）、ほっとZOO特別イベント「クイズで発見！ニホンザル」（1/26、27、2/2、3）、うえのdeにつぼん！飼育係のトークツアー（1/18、2/1、15）
	多摩	電車でまわろう！動物園・水族園スタンプラリー（1/10～3/3）、「縄文人がやってきた！縄文人のくらしと動物たち」（1/12）、ガイドツアー「Visit ほっと Zoo ツアー 日本の動物シリーズ」（1/14、27、2/9、24）、どうぶつえん寄席（1/26）、みてみよう 日本の動物ここがすごい！キーワードクイズラリー（2/16～3/31）、
	葛西	電車でまわろう！動物園・水族園スタンプラリー（1/10～3/3）、「Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち」深海トークショー（1/12）、「Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち」深海スタッフトーク（1/14、20）、「Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち」 深海ラボ（1/26、27）、「Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち」平日限定クイズラリー「深海クイズラリー」（1/15～2/8の平日のみ）、大道芸 de ほっとZoo!!（2/2）

実施項目	内 容	
	井の頭	電車であわろう！動物園・水族園スタンプラリー（1/10～3/3）、 大道芸deほっとzoo！！2019やってみよう 日本のあそび ここがす ごい！（1/14）、彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.5「どいて どい て 舟がでるよ——鑄金家 本山ひろ子作品展」（1/19～6/9）、Visit ほっと Zoo 2019 文化園コンサート『ブンコロピープ〜』コンサー ト」（2/3、10、17、24）井の頭自然文化園どうぶつえん寄席・春 風亭一之輔独演会（2/16）、

2. 園内プログラム

（1）動物解説業務（園内ガイドツアー・団体指導ほか）

各園に配置した動物解説員により、一般来園者を対象とした園内ガイドツアー及び小学生等の団体を対象とした動物解説のほか、夏休み期間その他に特別企画等を実施した。

項 目	実 施 内 容	
1. 一般来園者へのガイド	内 容	テーマを設定し、園内を案内しながら動物の解説を行った。（1回約45分間）
	実施回数	上野161回、多摩189回、葛西604回、井の頭113回、 4園合計1,067回
	参加者数	上野4,125名、多摩3,006名、葛西5,331名、井の頭1,646名、 4園合計14,108名
2. 団体指導	内 容	団体の要望等を事前に調整の上、プログラムを実施した。 特に学校団体については、学校教育と動物園との連携を図り、教育活動の一環として役立つプログラムを実施した。
	実施回数	上野283回、多摩164回、葛西452回、井の頭114回、 4園合計1,013回
	参加者数	上野21,110名、多摩11,844名、葛西25,886名、井の頭7,168名、 4園合計66,008名
3. 団体引率者への事前指導	内 容	遠足や理科・生活科等の見学で実地踏査に来る教員や引率者を対象として、動物園における教育プログラムを提示・説明した。
	実施回数	上野271回、多摩839回、葛西173回、井の頭123回 4園合計1,406回（実地踏査、電話、その他対応）
4. 特別企画	内 容	春夏休み期間を中心に、子供や親子連れを対象にクイズラリーやオリジナル観察シートを活用したセルフガイド、生物研究等の特別企画を行った。

項 目	実 施 内 容	
	実施回数	上 野 みんなでつくるおもしろ図鑑2回、クイズで発見！12回 多 摩 夏休み教員対象セミナー4回 葛 西 大人限定ガイドツアー32回 井の頭 文化園いきものクラブのリスまつり1回
5. 大人のための動物園・水族園講座（4園合同企画）	内 容	16歳以上対象の事前申込みによる半日講座と1日講座を設定し、観察の仕方や動物園水族園の役割を紹介した。
	実施時期	上野11月、多摩11月・12月、葛西11月、井の頭11月・12月
6. その他	各園の教育普及関係スタッフが連携し、観察会等各種普及活動における指導・企画展示用テキスト作成等を行った。	

（2）動物相談室の運営

上野動物園、多摩動物公園内の動物相談所において、来園者及び電話・書簡による相談に応じた。

園 名	来 園	電 話	書 簡	計	摘 要（重複あり）
恩賜上野動物園	1,807	2,186	0	3,999件	飼育1,114 動物園625 生態780 保護216 鳥獣害200 その他426
多摩動物公園	784	567	26	1,377件	飼育287 動物園183 生態342 保護47 鳥獣害35 その他132
計	2,591	2,753	26	5,376件	

（3）通年プログラム

園 名	内 容
恩賜上野動物園	・キーパーズトーク（ビバリウムほか） ・動物とのふれあい（子ども動物園すてっぷ体験プログラム・ビバリウム タッチミー） ・スタディシート（セルフガイド用ブックレット）1種配布
多摩動物公園	・キーパーズトーク（チンパンジーほか） ・モルモットとのふれあい（毎日実施） ・スタディシート（かんさつシート）17種配布
葛西臨海水族園	・スタッフトーク（マグロ、ペンギンほか） ・サメ・エイとのふれあい（タッチンフィーリンにて実施） ・スタディシート（魚タッチングシート）約20種配布
井の頭自然文化園	・飼育係のいきものガイド（アライグマほか）

園 名	内 容
	・ モルモットとのふれあい（毎日実施） ・ 動物たちのえさの時間（園内案内板に掲示） ・ スタディシート（ワークシート用資料集） 1 種配布

（４）企画プログラム

園 名	内 容
恩賜上野動物園	・ 桜の街の音楽会 2018（東京・春・音楽祭－東京のオペラの森2018－）（4/3,4） ・ 絵本の読み聞かせ会（4/10,13,17） ・ プラバンキーホルダーづくり（4/10～13,17～20） ・ スタンプラリー（4/10～13,17～20） ・ 着ぐるみでお出迎え（4/14,15） ・ みんなでぬろう！子ども動物園のなかまたち（4/14,15,21,22） ・ 子ども動物園スペシャルガイド（4/19～21） ・ いきもの博士のおはなし会（4/21,22） ・ 上野動物園公式ツイッター100万フォロワー記念企画（4/30） ・ ミュージウムウィーク特別ガイド（5/8,11） ・ 国際博物館の日記念「上野の山でサルめぐり」（5/13） ・ 国際生物多様性の日（5/14～6/24） ・ 野間馬のふるさとクイズラリー（5/26,27） ・ 野間馬のふるさと物産コーナー（5/26,27） ・ 「ライチョウ王国とやま」保護活動解説会（5/26,27） ・ 世界カワウソの日イベント（5/30） ・ コウノトリ育むお米贈呈式（5/31） ・ シャンシャンお誕生日カウントダウンイベント（6/2） ・ 歯と口の健康週間イベント「いい歯いきいき上野動物園行事」（6/3） ・ モーニングズー（6/3） ・ 春のVisit Zoo フォトスポット（6/7～13） ・ シャンシャン1歳記念カードの配布（6/12～17） ・ 歴史・文化探検隊（6/23） ・ サポーターズデイ第1回（6/24） ・ 「動物愛護に関する標語」募集（7/1～31） ・ TZV特別企画「東京にもクマはいる。クマに出会わないために」（7/24） ・ 打ち水イベント「打ち水日和」（7/24） ・ 台湾フェスタ2018（7/28,29）

園 名	内 容
	・世界トラの日特別企画（7/29） ・主催：池之端茅町 上野動物園夏休み特別パンダ見学ツアー（8/3） ・エキュート上野×上野動物園コラボイベント フォトブース（8/4） ・ゾウはかせになろう（8/10,14,16） ・真夏の夜の動物園（8/10～16） ・ドリームデイ・アット・ザ・ズー（8/27） ・長年飼育・長寿動物 お祝い看板の設置（9/4～24） ・世界サイの日記念イベント（9/19～10/4） ・「動物愛護に関する標語」入選作品掲示（9/20～11/15） ・動物愛護フェスティバル屋外行事（9/22） ・動物慰霊祭（9/23） ・カップパッジ復刻記念「東京 150 年特別企画」（9/25） ・Museum Start あいうえの「うえの！ふしぎ発見：アート&アニマル部」（9/29） ・アフリカフェア スタンプラリー（10/4～28） ・TZV・DGゴリラ班特別活動（10/6,11/14） ・TZV・DGニホンザル班特別活動（10/11） ・都立動物園・水族園×「いこーよ」コラボ企画「いきもの体験Instagram キャンペーン #tokyozoogram」（10/12～11/30） ・寛永寺僧侶と歩く上野公園めぐり（10/26,11/11） ・世界キツネザルの日記念イベント（10/26,27,30～11/2） ・文化財ウィーク「解説カードの配布」（10/27～11/4） ・つくろう！ パンダおりがみ 考えよう！ パンダアクション（10/28） ・パンダの日 スペシャルスポットガイド（10/28） ・文化財ウィーク特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」（10/31,11/2） ・見つけて！ たべて！ たべっ子どうぶつスタンプラリー（11/2～4） ・TZV・DGトラ班特別活動 ケアヒ行ってらっしゃい会（11/6） ・芸大×動物園 アートでみる動物たち（11/6～18） ・国際子ども図書館イベント「子どものための秋のおたのしみ会」（11/18） ・SPOT GUIDE FESTA 2018（11/23） ・TZV・DGゾウ班特別活動 ウタイの20歳お祝い会（11/27） ・TZV・DGカバ班特別活動 コビトカバ誕生会（11/30） ・新年イベント（1/2,3） ・Visit ほっと Zoo 2019（1/10～3/3）

園 名	内 容
	・ 電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー (1/10～3/3) ・ うえのdeにつぼん！キーワードラリー (1/10～3/3) ・ ほっとZoo特別ガイドツアー「日本にすむ動物たち」(1/11,17,2/13,19) ・ 大道芸deほっとZoo!!2019 (1/13) ・ うえのdeにつぼん！飼育係のトークツアー (1/18,2/1,15) ・ アースウォッチ的大人の遠足「マダガスカル原猿アイアイ」(2/2) ・ サポーターズデイ第2回 (2/3) ・ かんがえよう！小獣館のお献立 (2/9) ・ 東京都美術館「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」とのコラボ企画 (2/9～4/7) ・ パンダ大使と〇×クイズ！ (2/17) ・ うえのパンダ大使作成動画「みて！きいて！パンダのあれこれ」の放映 (2/17～3/10) ・ シャンシャンコラボ記念！ ゴーちゃん。スタンプラリー@上野動物園 (2/23) ・ モーニングズー (3/2) ・ 上野動物園×WWF「においてめぐる動物園—くくんPlanetに出かけよう」(3/3) ・ 国立科学博物館「大哺乳類展示2」とのコラボ企画 (3/21～6/16) ・ 東京・春・音楽祭 桜の街の音楽会 (3/22) ・ 子ども動物園70周年記念イベント (3/23～4/22) ・ さくらツアー (3/25) ・ 「EARTH HOUR 2019」への協力 (3/30)
多摩動物公園	・ 世界バクの日 スペシャルトーク (4/28,29) ・ 園長と着ぐるみのお出迎え (5/4,5/5) ・ 開園60周年記念「京王線スペシャル電車で多摩動物公園に行こう！」(5/5) ・ 開園60周年記念「月間動物」イベント (5月) (5/12,13,19,20,26,27) ・ 友の会日帰りバスツアー「那須高原観察見学会」(5/19) ・ オランウータン「ジュリー誕生会」(5/20) ・ 春のVisit Zoo フォトスポット (5/22～29) ・ ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo (6/2) ・ 開園60周年記念「月間動物」イベント (6月) (6/16,17,23) ・ 子供写生画コンクール作品募集 (7/1～8/31) ・ 虫となかよし (7/7) ・ ボランティアの「クイズに答えてお宝ゲット」(7/8,15,22)

園 名	内 容
	・ 初心者向け虫のさわり方教室 (7/14) ・ 世界チンパンジーの日スペシャルトーク (7/14,15,16) ・ チョウはともだち (7/16,29) ・ キッズパークたまどう夏のスタンプラリー (7/20～8/31) ・ 打ち水イベント「打ち水日和」(7/23) ・ 台湾フェスタ2018 (7/28,29) ・ オランウータンの夏祭りイベント (7/29) ・ 京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター協力事業 (8/4) ・ 伊勢丹立川店協力事業 (8/6) ・ カブトムシ教室 (8/9,10,13,15,17,21,23,26,27) ・ 「世界ゾウの日」 特別プログラム (8/11,12) ・ サマーナイト@Tama Zoo 2018 (8/11～16,18,19,25,26) ・ 着ぐるみグリーティング (8/12) ・ 月間動物企画「どこかが長い動物」 クイズラリー (8/13～16,18,19,25,26) ・ 東京都埋蔵文化財センター共催企画「親子で学ぼう！ 人間と動物のつながりー縄文人のくらしを探るー」(8/18) ・ 月間動物スペシャルトーク「どこかがなが〜いどうぶつ」(8/25) ・ 長寿動物お祝いイベント (9/6～18) ・ 動物慰霊祭 (9/23) ・ 映像上映会「野生のインドシナーマレーシア」(9/24) ・ マレーシアの伝統舞踊 (9/30) ・ アフリカフェア スタンプラリー (10/4～28) ・ 運動の秋「リレートーク」(10/6,20) ・ 学習の秋「○×クイズ大会」(10/8) ・ 都立動物園・水族園×「いこーよ」コラボ企画「いきもの体験Instagram キャンペーン #tokyozoogram」(10/12～11/30) ・ サポーターズデイ (10/13) ・ 親子向けワークショップ「どんぐりと動物たち」(10/14) ・ ボランティアによるクイズイベント (10/14,28) ・ アフリカフェア (10/27,28) ・ 文化財ウィーク (10/27～11/4) ・ 写生画表彰式 (11/3) ・ 文化財ウィーク共催イベント「動物園でとりをふやす、まもる」(11/4) ・ 映像上映会「野生のオーストラリア」(11/18,23) ・ ボランティアによる月間動物クイズラリー (12/2,9,16)

園 名	内 容
	・ オオゴマダラのクリスマスツリーの展示 (12/13～25) ・ 動物たちへのクリスマスプレゼント (12/22,23,24) ・ トナカイのスペシャルキーパーズトーク (12/23) ・ トナカイ クイズ (12/23,24) ・ 新年イベント (1/2,3) ・ 新年スペシャルイノシシ〇×クイズ (1/3) ・ ボランティアによる月間動物クイズ・ビンゴ (1/6,13,19,20,27) ・ Visit ほっと Zoo 2019 (1/10～3/3) ・ 電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー (1/10～3/3) ・ どうぶつえん寄席 (1/26) ・ 親子向けプログラム「きいて・みて・さわって日本の動物 ここがすごい」(1/27) ・ オランウータンに恵方巻きのプレゼント (2/3) ・ モルモットのうごきをかんさつしてみよう (2/3,17) ・ 家畜馬とのふれあい (2/9,23) ・ クイズ大会「かちくってなんだろう？」(2/10) ・ みてみよう 日本の動物ここがすごい！キーワードクイズラリー (2/16～3/31) ・ 上映会「翼のある動物たち」(3/9,30) ・ バードレンジャーのクイズで遊ぼう！ (3/17,21) ・ 鳥カフェ (中高生向け) (3/24)
葛西臨海水族園	・ 「飼育の日」イベント (4/15) ・ マグロのぼり展示 (4/21～5/6) ・ JAMSTEC横須賀 一般公開 (5/12) ・ 春のVisit Zoo フォトスポット (5/31～6/5) ・ ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo (6/2) ・ 海鳥フェスティバル (7/14) ・ 第47回江戸川区特産金魚まつり (7/21,22) ・ 打ち水イベント「打ち水日和」(7/23) ・ 台湾フェスタ2018 (7/28,29) ・ Night of Wonder一夜の不思議の水族館 (8/11～16) ・ 友の会の日 (9/8) ・ アフリカフェア スタンプラリー (10/4～28) ・ 体験！マグロラボ (10/6,7) ・ 開園記念日イベント「All About MAGURO」(10/6～8)

園 名	内 容
	・都立動物園・水族園×「いこーよ」コラボ企画「いきもの体験Instagram キャンペーン #tokyozoogram」(10/12～11/30) ・ボランティアーズDay2018 (10/14) ・文化財ウィーク (10/27～11/4) ・スイートツアー「海の中のオス♂メス♀事情」(12/23,24) ・新年イベント (1/2,3) ・Visit ほっと Zoo 2019 (1/10～3/3) ・電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー (1/10～3/3) ・Deep of Wonder—不思議な深海の生き物たち (1/12～2/8) ・大道芸deほっとzoo！！ (2/2) ・バレンタインデー特別企画スイートツアー「海の中のオス♂メス♀事情」(2/9,10) ・サポーターズデイ (3/9) ・スペシャルスイートトーク「男」の子と「女」の子 魚の場合 (3/17)
井の頭自然文化園	・アジアゾウ舎運動場特別開放「はな子とサクラ。」(3/28～4/1) ・春のミニコンサート (3/28～4/1) ・兜かざり (3/28～5/9) ・春のスタンプラリー「ザ・タイムスリップ：ちょっと昔の文化園スタンプラリー」(4/14～6/3) ・切り絵展「いのかしらしぜんぶんかえんのいちねん」(4/20～5/25) ・飼育の日イベント (4/21,22) ・井の頭自然文化園の開園76周年記念イベント (5/12,13) ・春のVisit Zoo フォトスポット (5/15～20) ・おえかきZOO—どうぶつたちを描いてみよう (5/29～7/16) ・ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo (6/2) ・「おえかきZOO」父の日特別企画「みんなの絵をTシャツにしてプレゼントしよう！」(6/17) ・七夕飾り (6/22～7/8) ・ウェルカム展示(夏)「Cool Zoo スポット」(7/14～8/31) ・怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇 - 井之頭百物語・陸」(7/21～9/17) ・台湾フェスタ2018 (7/28,29) ・もののけワークショップ動物園オリジナル妖怪をつくろう！—(8/25) ・動物慰霊祭 (9/23) ・アフリカフェア スタンプラリー (10/4～28) ・秋の夜長の自然文化園 (10/6～7)

園 名	内 容
	・都立動物園・水族園×「いこーよ」コラボ企画「いきもの体験Instagramキャンペーン #tokyozoogram」(10/12～11/30) ・ヤマネコ祭2018 (10/27～28) ・文化財ウィーク (10/27～11/4) ・サポーターズデイ (11/18) ・ウェルカム展示(冬)「どうぶつツリー」(11/21～12/24) ・文化園干支スタンプラリー「文化園でイノ・シカ・チョウ」(12/15～1/9) ・今年も文化園にサンタクロースがやってくる！ (12/24) ・新年イベント (1/2,3) ・琉神による琉球獅子舞 (1/3) ・Visit ほっと Zoo 2019 (1/10～3/3) ・電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー (1/10～3/3) ・大道芸deほっとzoo!!2019 (1/14) ・雛飾り (2/1～3/3) ・文化園コンサート「『ブンコロピープ〜』コンサート」(2/3,10,17,24) ・井の頭自然文化園どうぶつえん寄席 (2/16) ・「リスの小径」オープン30周年記念「文化園一春のリスまつり」(3/1～5/6) ・兜かざり (3/27～5/9)

(5) 特設展・企画展

園 名	内 容
恩賜上野動物園	・ミヲマモル——Dr.ペトルの秘密の倉庫 (2018/3/26～12/28) ・企画展「野間馬のふるさと・いまばりで遊ぼう！」(5/26～6/17) ・シャンシャン1歳お祝いイベント「母親シンシンになりきり！シャンシャンの成長体験コーナー」(6/17) ・「日本におけるモスクワ文化の日」写真展 (10/17,18) ・来園8周年記念イベント「リーリー&シンシン」輸送箱の展示 (2/13～17) ・「ハラペコロジー——なにを食べる？ どう食べる？」(3/28～12/28)
多摩動物公園	・飼育の日パネル展～来て・見て・知ろう飼育係！～ (4/5～4/24) ・パネル展「昆虫園飼育係ってどんな人？何してる？」(4/5～4/24) ・開園60周年記念展示プロローグ「なつかしのタマ動展」(5/2～7/18) ・世界カワウソの日(特別展示と飼育担当者による餌やり) (5/27)

園 名	内 容
	・都立動物園・水族園×「いこーよ」コラボ企画「いきもの体験Instagram キャンペーン #tokyozoogram」(10/12～11/30) ・ボランティアーズDay2018 (10/14) ・文化財ウィーク (10/27～11/4) ・スイートツアー「海の中のオス♂メス♀事情」(12/23,24) ・新年イベント (1/2,3) ・Visit ほっと Zoo 2019 (1/10～3/3) ・電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー (1/10～3/3) ・Deep of Wonder—不思議な深海の生き物たち (1/12～2/8) ・大道芸deほっとzoo！！ (2/2) ・バレンタインデー特別企画スイートツアー「海の中のオス♂メス♀事情」(2/9,10) ・サポーターズデイ (3/9) ・スペシャルスイートトーク「男」の子と「女」の子 魚の場合 (3/17)
井の頭自然文化園	・アジアゾウ舎運動場特別開放「はな子とサクラ。」(3/28～4/1) ・春のミニコンサート (3/28～4/1) ・兜かざり (3/28～5/9) ・春のスタンプラリー「ザ・タイムスリップ：ちょっと昔の文化園スタンプラリー」(4/14～6/3) ・切り絵展「いのかしらしぜんぶんかえんのいちねん」(4/20～5/25) ・飼育の日イベント (4/21,22) ・井の頭自然文化園の開園76周年記念イベント (5/12,13) ・春のVisit Zoo フォトスポット (5/15～20) ・おえかきZOO—どうぶつたちを描いてみよう (5/29～7/16) ・ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム in Tokyo (6/2) ・「おえかきZOO」父の日特別企画「みんなの絵をTシャツにしてプレゼントしよう！」(6/17) ・七夕飾り (6/22～7/8) ・ウェルカム展示(夏)「Cool Zoo スポット」(7/14～8/31) ・怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇 - 井之頭百物語・陸」(7/21～9/17) ・台湾フェスタ2018 (7/28,29) ・もののけワークショップ動物園オリジナル妖怪をつくろう！—(8/25) ・動物慰霊祭 (9/23) ・アフリカフェア スタンプラリー (10/4～28) ・秋の夜長の自然文化園 (10/6～7)

園 名	内 容
	・都立動物園・水族園×「いこーよ」コラボ企画「いきもの体験Instagramキャンペーン #tokyozoogram」(10/12～11/30) ・ヤマネコ祭2018 (10/27～28) ・文化財ウィーク (10/27～11/4) ・サポーターズデイ (11/18) ・ウェルカム展示(冬)「どうぶつツリー」(11/21～12/24) ・文化園干支スタンプラリー「文化園でイノ・シカ・チョウ」(12/15～1/9) ・今年も文化園にサンタクロースがやってくる！ (12/24) ・新年イベント (1/2,3) ・琉神による琉球獅子舞 (1/3) ・Visit ほっと Zoo 2019 (1/10～3/3) ・電車でまわろう！動物園&水族園スタンプラリー (1/10～3/3) ・大道芸deほっとzoo!!2019 (1/14) ・雛飾り (2/1～3/3) ・文化園コンサート「『ブンコロピープ〜』コンサート」(2/3,10,17,24) ・井の頭自然文化園どうぶつえん寄席 (2/16) ・「リスの小径」オープン30周年記念「文化園一春のリスまつり」(3/1～5/6) ・兜かざり (3/27～5/9)

(5) 特設展・企画展

園 名	内 容
恩賜上野動物園	・ミヲマモル——Dr.ペトルの秘密の倉庫 (2018/3/26～12/28) ・企画展「野間馬のふるさと・いまばりで遊ぼう！」(5/26～6/17) ・シャンシャン1歳お祝いイベント「母親シンシンになりきり！シャンシャンの成長体験コーナー」(6/17) ・「日本におけるモスクワ文化の日」写真展 (10/17,18) ・来園8周年記念イベント「リーリー&シンシン」輸送箱の展示 (2/13～17) ・「ハラペコロジー——なにを食べる？ どう食べる？」(3/28～12/28)
多摩動物公園	・飼育の日パネル展～来て・見て・知ろう飼育係！～ (4/5～4/24) ・パネル展「昆虫園飼育係ってどんな人？何してる？」(4/5～4/24) ・開園60周年記念展示プロローグ「なつかしのタマ動展」(5/2～7/18) ・世界カワウソの日(特別展示と飼育担当者による餌やり) (5/27)

園 名	内 容
	・ ホタル展 (6/9～26) ・ 世界チンパンジーの日パネル展 (7/1～31) ・ カブトムシの展示 (7/26～9/4) ・ パネル展示「木の上でくらす動物～何を食べているの?～」(9/1～10/2) ・ 秋の鳴く虫展 (9/6～25) ・ 美術作品展「りかびてん」(11/1～27) ・ 写生画コンクール入選作品展 (11/1～27) ・ りかび展ワークショップ「季節を感じよう! 秋は自然も人も芸術家?!」(11/24) ・ 干支展「3匹のいのしし」(12/20～3/31) ・ 生態園30周年記念企画展 (2/23～4/9) ・ 写真展『インセクタリウム』の表紙を飾った昆虫たち(2/23～4/9)
葛西臨海水族園	・ 特設展示「水辺に生きる草」(7/26～2019/3/31) ・ 特設展示「海のゆりかご」(11/1～2020/2/29予定) ・ 特設展示 「海鳥を科学する～飼育と研究の現場から～」(7/26～10/16)
井の頭自然文化園	・ アジアゾウはな子について (2017/1/31～) ・ 水生物館特設展示「私たちにできること アメリカザリガニは放さない」(2017/11/30～5/6) ・ 彫刻館特設展—Art and the Zoo Vol.4 本田公夫作品展「消えゆく隣人たちのポートレート」 (2017/12/15～6/10) ・ 飼育の日特別展示「飼育係の秘密道具」(4/13～5/16) ・ アジアゾウはな子の献花台設置 (5/26,27) ・ ミニ展示コーナー「カブトムシのさなぎ展」(6/30～7/14) ・ ミニ展示コーナー「カブトムシ展」(7/15～8/31) ・ 資料館特設展示「園長室前、“冬の”いきもの広場」(10/23～11/16) ・ ミニ展示コーナー「ヤゴ展」(11/2～12/14) ・ 資料館特設展示「園長室前いきもの広場」(11/17～) ・ 彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.5「どいて どいて 舟がでるよ—— 鑄金家 本山ひろ子作品展」(1/19～6/9) ・ ワークショップ「金属を溶かして作品をつくってみよう」(3/23) ・ 東京の鳥を知っていますか?—身近に暮らすいろいろな鳥たち(3/27～7/1) ・ ミニ展示コーナー「井の頭自然文化園のおたまじゃくし展」(3/31～5/27)

(6) その他プログラム

実施月日	内 容
恩賜上野動物園	・しのばず自然観察会 (6/30) ・都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト (8/21～3/31) ・台東区なぜなぜクラブ (8/29) ・新宿区立教育センター 理科実験教室 (10/6) ・創エネあかりパーク (10/31～11/4) ・ライチョウ勉強会 (1/26)
多摩動物公園	・オランウータンの赤ちゃん名前投票 (7/5～7/19) ・オランウータン命名関連イベント (7/21) ・程久保祭り (9/9) ・京王れーるらんど「アネックス」オープン記念式典 (10/14) ・猛獣脱出対策訓練 (2/22) ・オランウータン「バレンタイン」のお別れ会 (3/21) ・ハグハグ1周年グリーティング (3/24)
葛西臨海水族園	・お・さ・か・な大作戦2018 (7/7) ・サステナブル・シーフード・ウィーク2018 (10/10) ・東京都環境公社共催「ごみスポ大会2018」(3/16)
井の頭自然文化園	・「けものフレンズ あんこーる！」京王の電車に乗って動物たちに会いにいこう！アンコール企画 (1/25～4/8) ・環境局 日傘の普及啓発事業 (8/5) ・三鷹国際交流フェスティバル (9/23) ・吉祥寺PARCOコラボ企画「ぬまがさワタリの絶滅どうぶつ図鑑展」スタンプラリー (10/5～10/21) ・第11回むさしの環境フェスタ (11/11) ・第48回野鳥の巣箱コンクール受賞作品展 (11/13～11/25) ・ASABI 井の頭自然文化園プロジェクト (1/12～1/27) ・東京都福祉保健局 犬や猫の譲渡事業PR展 (2/26～3/10)

3. 体験プログラム・フィールドプログラム

動物やその生息環境について、来園者が有意義に観察し、楽しみながら学べるよう、各種プログラムを企画し、実施した。

(1) 体験プログラム

園 名	内 容
恩賜上野動物園	・サマースクール(視覚障害児向け) (7/24, 25) ・サマースクール (7/26, 27, 28) ・うえのパンダ大使 (8/16、3/10) ・大人のための動物園講座「半日で学ぶ動物園の楽しみ方」(11/27, 30)
多摩動物公園	・飼育係体験イベント～飼育係になってみよう～ (4/14, 15) ・サマースクール (7/23, 24, 26, 27, 30, 31, 8/2, 3) ・運動の秋「ズーリンピック」(10/7, 21) ・アフリカフェア アフリカの民族衣装着付け体験 (10/27, 28) ・大人のための動物園・水族園講座 (11/29, 12/1) ・縄文人がやってきた！縄文人の暮らしと動物たち (1/12) ・動物園ふしぎ発見教室 (3/23, 24)
葛西臨海水族園	・進め！海のいきものたち (4/28, 7/14, 12/8, 3/2) ・ゴールデンウィーク特別プログラム「この夏、磯へ出かけよう！」(5/3, 5) ・海のあそびや (5/13, 8/3, 9/23, 11/18) ・海の学び舎 (9/24, 12/9, 2/24) ・大人のための動物園・水族園講座 (12/3～4)
井の頭自然文化園	・サマースクール (7/27, 8/2～3, 8/5, 8/11) ・身近ないきもの探検隊 (6/9, 7/16, 11/23) ・大学生のためのズーカレッジ (9/6～9) ・大人のための動物園・水族園講座 (11/28, 12/2) ・文化園いきものクラブのリスまつり (3/17)

(2) フィールドプログラム

園 名	内 容
4 園 合 同 企 画	・水辺の保全プログラム アカハライモリの保全現場をたずねる2018 (10/13)

園 名	内 容
葛西臨海水族園・ 井の頭自然文化園 合 同 企 画	・「親子ではじめる川遊び」第1回「はじめて川遊びコース」(6/30,7/1) ・「親子ではじめる川遊び」第2回「川の生き物を飼ってみようコース」(7/22) ・「親子ではじめる川遊び」第3回「秋川で遊ぼうコース」(8/25)
恩賜上野動物園	・セミとコウモリの観察会(8/4) 於：不忍池畔
多摩動物公園	・ホタル観察会(6/16,17,19) 於：園内 ・ムササビの棲む森を見よう(9/2) 於：園内及び高尾山 ・初心者野鳥観察会(3/3) 於：園内及び動物ホール
葛西臨海水族園	・「東京の海を知る」第1回「東京湾の人工干潟を訪ねる」(4/29) 於：葛西海浜公園 西なぎさ ・「東京の海を知る」第2回「東京湾の干潟とアマモ場を訪ねる」(5/19) 於：千葉県富津市 富津公園 潮干狩り場 ・「東京の海を知る」第3回「東京湾で魚を釣る・食べる」(9/9) 於：東京湾 江戸川放水路河口 ・「東京の海を知る」第4回「海苔をつむ・作る・食べる」(2/11) 於：金田みたて海岸潮干狩場
井の頭自然文化園	・親子で井の頭池たんけん(9/17) 於：井の頭池

(3) 講演会

動物園・水族館及び自然、野生動物の知識を深めるために、大人から子供まで様々な年齢層を対象に、講演会を実施した。

① 動物園講演会

園名	演 題 ・ 講 師	参加者
合 同 企 画	【小笠原保全講演会「小笠原の自然環境と保全」】 ・1/19 多摩動物公園にて実施 《第1部》 - 基調講演「小笠原の魚たち～魚類相と遺伝子から見た特徴」 栗岩 薫 氏(国立科学博物館 動物研究部 非常勤研究員) 《第2部》 - 講演1 「都立動物園水族園が取り組む小笠原産希少生物の保全」 荒井 寛(多摩動物公園 野生生物保全センター) - 講演2 「小笠原産陸生巻貝(アナカタマイマイ)の繁殖」 杉田 務(多摩動物公園 昆虫園飼育展示係) - 講演3 「小笠原のチョウチョウオ ユウゼンの生態調査」 児玉 雅章(葛西臨海水族園 調査係)	64名

園名	演 題 ・ 講 師	参加者
合 同 企 画	【連続講演会「身近な水辺の生き物を守る」第1回「東京の カエルについて かんガエル」】 ・ 2/23 葛西臨海水族園にて実施 講演 1 「都立動物園・水族園が行っている両生類の保全活動」 中沢 純一（葛西臨海水族園 飼育展示課 飼育展示係） 講演 2 「東京のヒキガエルとオタマジャクシの社会」 長谷 和子 氏 （総合研究大学院大学 先端科学研究科 生命共生体進化学専攻）	63名
	【連続講演会「身近な水辺の生き物を守る」第2回「イモリを調べる・イモリを守る」】 ・ 3/18 井の頭自然文化園にて実施 講演 1 「『イモリ』知ってますか？」 三森 亮介（井の頭自然文化園 水生物館飼育展示係） 講演 2 匂いで惹き合うイモリの性フェロモン」 中田 友明 氏（日本獣医生命科学大学 講師）	38名
上 野	【講演会シリーズ 園長講演「世界の動物園事情」】 ・ 11/11 東京都美術館で実施 講演 「世界の動物園事情」 福田 豊（上野動物園 園長）	189名
	【第66回全国博物館大会分科会「博物館における環境教育」】 ・ 11/19 園内にて実施 講師： 諏訪 哲郎 氏（学習院大教育科授・日本環境会長） 荒井 寛 氏（多摩動物公園野生保全センター長） 三橋 弘宗 氏（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員） 増田 直広 氏（公益財団法人キープ協会環境教育事業部主席研究員） 羽澄 ゆり子 氏（東京都多摩市立連光寺小学校教育連携コーディネーター）	30名
	【・ジャイアントパンダ国際交流シンポジウム 「マレーシア国立動物園のパンダと野生動物保全」】 ・ 12/16 東京国立博物館にて実施 講演 1 「マレーシア国立動物園におけるジャイアントパンダの管理と繁殖について」 Dr. Mat Naim Bin Haji Ramli 氏（マレーシア国立動物園）	218名

園名	演 題 ・ 講 師	参加者
上 野	講演 2 「上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育と繁殖」 恩賜上野動物園 飼育展示課 東園飼育展示係 講演 3 「ジャイアントパンダ保全の国際的な取組について—— 2018年国際学術年会より」 豊嶋 省二（恩賜上野動物園 飼育展示課 東園飼育展示係長） 講演 4 「マレーシア国立動物園での保全の取組と教育プログラムについて」 Dr. Kavitha Jayaseelan 氏（マレーシア国立動物園）	
	【支の講演会2019「猪突猛進しないイノシシの生態」】 ・1/20東京都美術館 講堂にて実施 ① 都立動物園・水族園4園の園長による新年のご挨拶と、最近の4園のニュースのご紹介 ○福田 豊（恩賜上野動物園） ○永井 清（多摩動物公園） ○日橋 一昭（井の頭自然文化園） ○田畑 直樹（葛西臨海水族園） ② 講演「猪突猛進しないイノシシの生態」 江口 祐輔 氏 （農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター 鳥獣害対策技術グループ長）	174名
多 摩	【開園60周年記念講演会「アリはすごい！ゾウもすごい！」】 ・6/24 園内にて実施 午前の部 「生き物は円柱形——ゾウの鼻もライオンの足も、それからミミズも円柱形！」 午後の部 「アリはすごい！ ゾウもすごい！」 本川 達雄 氏（東京工業大学名誉教授）	254名
	【木の上でくらすオランウータン】 ・9/24 園内にて実施 講演 「木の上でくらすオランウータン」 久世 濃子 氏（国立科学博物館人類研究部）	112名
	【アフリカフェア 記念講演会「アフリカに生きる—動物と人」】 ・10/27 園内にて実施 講演 1 「南部アフリカの動物と自然」 山形 豪氏 氏（動物写真家） 講演 2 「野生のアフリカゾウと共に 未来へのメッセージ」 中村 千秋 氏（アフリカゾウ研究者、酪農学園大学特任教授）	117名

園名	演 題 ・ 講 師	参加者
多 摩	【昆虫生態園30周年記念講演会「アリと会話する日を夢みて」】 ・ 11/10 園内にて実施 講演 1 「ハキリアリの飼育」 杉田 務（多摩動物公園 昆虫園飼育展示係） 講演 2 「アリと会話をする日を夢見て」 村上 貴弘 氏 （九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター 准教授）	85名
	【月間動物企画講演会「袋で子育てする理由」】 ・ 11/11 園内にて実施 講演 「袋で子育てする理由」 遠藤 秀紀 氏（東京大学総合研究博物館 教授）	71名
	【月間動物企画講演会「寒さを生き抜く工夫」】 ・ 12/8 園内にて実施 講演 「寒さを生き抜く工夫」 遠藤 秀紀 氏（東京大学総合研究博物館 教授）	89名
	【干支の講演会「イノシシは本当に猪突猛進？」】 ・ 1/13 園内にて実施 講演 1 「イノシシの変身物語と知られざる姿」 高橋 春成 氏（奈良大学 名誉教授） 講演 2 「イノシシのくらしを調べる——イノシシは害獣か??」 小寺 祐二 氏（宇都宮大学 准教授）	109名
	【野鳥写真家と観察する中級者野鳥観察会&スライド講演会】 ・ 3/9 園内にて実施 野鳥観察会 ：園内にいる野鳥を講師と一緒に観察 スライド講演会：国内外の野鳥の写真をスライドショーとして流し、生息地や生態について紹介。当園で飼育している鳥類の本来の生息地や生態についても紹介。 中村 利和 氏、菅原 貴徳 氏（野鳥写真家）	18名
	【野生生物保全センター講演会 「アライグマとどう向き合うか？」】 ・ 3/10 園内にて実施 講演 1 「アライグマとどう向き合うか」 加藤 卓也 氏（日本獣医生命科学大学 講師） 講演 2 「多摩動物公園内におけるアライグマの出現状況と両生類の保全活動」 古橋 保志（多摩動物公園 教育普及課 昆虫園飼育展示係）	77名

園名	演 題 ・ 講 師	参加者
葛 西	【水草講演会】 ・ 9/15 園内にて実施 講演 1 「水辺をつくる・みせる・つたえる」 太田 智優（葛西臨海水族園 飼育展示係） 講演 2 「消えゆく水草を守る～水草の不思議とその危機、そして私たちにできること～」 田中 法生 氏（独立行政法人国立科学博物館 植物研究部）	69名
	【講演会「つどえ、オロロヘン！」】 ・ 11/25 園内にて実施 第 1 部 「ようこそ、海鳥がにぎわう羽幌町へ」 石郷 岡卓哉 氏（羽幌町町民課 北海道海鳥センター 環境衛生係） 第 2 部 「オロロンで繋がる」 野島 大貴（葛西臨海水族園 飼育展示係）	66名
	【Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち】 ・ 1/12 園内にて実施 第 1 部 「深海で生きる——深海生物の生存戦略」 藤原 義弘 氏（国立研究開発法人海洋研究開発機構 海洋生物多様性研究分野 上席技術研究員） 第 2 部 「Deep Ocean 深海生物の世界」 岩崎 弘倫 氏（NHKエンタープライズ 自然科学番組エグゼクティブプロデューサー）	55名
井 の 頭	【彫刻館特設展関連企画・本田公夫講演会 第2部「WCSによるニューヨークの動物園・水族館展示」】 ・ 4/28 園内にて実施 講演 WCSによるニューヨークの動物園・水族館展示 本田 公夫 氏（野生生物保全協会〔WCS〕 展示グラフィック アーツ部門スタジオマネージャー）	133名
	【日本産動物講演会「ニホンアナグマを知る——アナグマはクマではありません」】 ・ 6/24 園内にて実施 講演 ぼくらはみんな生きている！ アナグマ特別バージョン 福田 幸広 氏（動物写真家）	164名

園名	演 題 ・ 講 師	参加者
井 の 頭	【秋の3時間延長開園 特別講演会「彫刻家北村西望の時代——動物園の中の彫刻園の中の“裸のサル”の羞恥心をめぐって」】 ・ 10/7 園内にて実施 講演 彫刻家北村西望の時代——動物園の中の彫刻園の中の“裸のサル”の羞恥心をめぐって 木下 直之 氏（東京大学大学院教授、静岡県立美術館長）	111名
	【ヤマネコ祭特別企画「講演会」】 ・ 10/27 園内にて実施 講演 1 「井の頭自然文化園が取り組むツシマヤマネコの保全」 唐沢 瑞樹（井の頭自然文化園 飼育展示係） 講演 2 東京動物園協会・日本獣医生命科学大学連携協定共同事業成果報告「ヤマネコの人工繁殖に挑戦する！」 堀 達也 氏（日本獣医生命科学大学 教授）	51名

② 他団体との共催講演会

実施月日	11月25日
行 事 名	コウノトリ保全セミナー——あなたの街にもコウノトリが！？ ～見えてきたコウノトリ保全事業の課題と展望～
共 催	多摩動物公園、コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）
会 場	東京都美術館 講堂
参加者数	93名
内 容	地方自治体、大学関係者、動物園などさまざまな立場でコウノトリに携わる講師がコウノトリ保全事業の最新情報について紹介する保全セミナーを実施。 ◆講演 「コウノトリ保全事業の近年の成果」 佐川 志朗 氏（兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 教授、兵庫県立コウノトリの郷公園 エコ研究部長、IPPM-OWS域内保全作業部会長） ◆講演 「徳島県鳴門市での繁殖について」 柴折 史昭 氏（コウノトリ定着推進連絡協議会<徳島県>） ◆講演 「島根県雲南市での繁殖について」 高橋 誠二 氏（雲南市教育委員会 文化財課） ◆講演 「京都府京丹後市での繁殖について」 小北 景子 氏（京丹後市教育委員会 文化財保護課） ◆講演 「野田市のコウノトリ放鳥事業について」 岡 重之 氏（野田市 みどりと水のまちづくり課） ◆講演 「関東でひろがる コウノトリの輪——埼玉県鴻巣市・自治体フォーラムの取り組み」 岡安 優子 氏（鴻巣市 環境課） ◆講演 「域外保全の重要性——飼育施設での取り組みと課題」 中島 亜美（多摩動物公園 南園飼育展示係、（公社）日本動物園水族館協会 生物多様性委員会 ニホンコウノトリ計画管理者） ◆講演 「野外コウノトリの救護及び死亡の要因」 松本 令以 氏（兵庫県立コウノトリの郷公園 獣医師、IPPM-OWS事務局 局長） ◆講演 「これまでの取り組みの総括と今後の展望」 江崎 保男 氏（兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科長・教授、兵庫県立コウノトリの郷公園 統括研究部長、IPPM-OWS 副代表）

4. 学校教育との連携

(1) 各園実績

園 名	内 容
恩 賜 上 野 動 物 園	・ 教員セミナー（3件96名） ・ 職場訪問（86件523名） ・ 職場体験（8件15名） ・ 団体見学指導（283件21,110名） ・ 教材貸出（231件） ・ 大学ほか実習生指導（60名） ・ 出張授業・講師派遣（14件） ・ 教師養成塾（3名）
多 摩 動 物 公 園	・ 教員セミナー（2件75名） ・ 職場訪問（12件364名） ・ 職場体験（8件32名） ・ 団体見学指導（164件11,844名） ・ 教材貸出（690件） ・ 大学ほか実習生指導（64名） ・ 出張授業・講師派遣（11件） ・ 教師養成塾（2名）
葛 西 臨 海 水 族 園	・ 教員セミナー（3件63名） ・ 職場訪問（62件456名） ・ 職場体験（11件30名） ・ 団体見学指導（452件25,886名） ・ 教材貸出（2件） ・ 大学ほか実習生指導（18名） ・ 出張授業・講師派遣（2件） ・ 教師養成塾（4名）
井 の 頭 自 然 文 化 園	・ 教員セミナー（3件79名） ・ 職場訪問（8件36名） ・ 職場体験（9件18名） ・ 団体見学指導（114件7,168名） ・ 教材貸出（23件） ・ 大学ほか実習生指導（14名） ・ 出張授業・講師派遣（4件） ・ 教師養成塾（2名）

(2) 教員セミナーの開催

学校を中心とした教員を対象として、飼育展示動物や施設を活かした生きものの観察法、飼育法、採集法、教授法等を紹介し、校外学習で利用するポイントと授業へのヒントを探る講座を計13回、312名の参加者に対して実施した。

実施日	内 容	講 師	参加者
7月23日	3年理科 はじめての昆虫学	多摩:教育普及係	14名
7月24日	井の頭池で調べる水辺の生きもの	井の頭:教育普及係、水生物館飼育展示係	14名
7月25日	モルモット・メダカ等の飼育	井の頭:教育普及係、動物病院、飼育展示係、水生物館飼育展示係	37名
7月26日	身近なムシの調べ方・よび寄せ方	井の頭:教育普及係、水生物館飼育展示係	28名
7月26日	干潟を体験！環境と生きものを知る	葛西:教育普及係	20名
7月27日	干潟を体験！環境と生きものを知る	葛西:教育普及係	24名
7月31日	6年理科 観察から探る「消化」	上野:教育普及係	16名
8月1日	動物園で学ぶ理科・国語	上野:教育普及係、東園飼育展示係、動物病院係	39名
8月2日	動物園で学ぶ理科・国語	上野:教育普及係、東園飼育展示係、動物病院係	41名
8月3日	3年理科 はじめての昆虫学	多摩:教育普及係	21名
8月6日	動物の骨と筋肉	多摩:教育普及係、南園飼育展示係	22名
8月20日	動物の骨と筋肉	多摩:教育普及係、南園飼育展示係	18名
2月16日	はじめての動物飼育——水の生きもの	葛西:教育普及係、飼育展示係	18名

(3) 出張授業の開催

各園において動物園の仕事や動物の飼育管理等について、職員が講師となり学校や図書館等に出向き出張授業を開催した。

実施園	出 張 先	実施件数
恩賜上野動物園	台東区立根岸小学校ほか	14
多摩動物公園	調布市立第一小学校ほか	11

葛西臨海水族園	連光寺小学校	2
井の頭自然文化園	三鷹市立高山小学校ほか	4

(4) 連携推進用資料の作成と配布

校外学習等のための団体来園者に、少しでも有意義な見学ができるよう、生き物を見るポイントや園の見どころが分かるプログラム・教材を紹介した教育活用ハンドブックを各園で引率者の参考資料として配布した。

5. 移動水族館事業

葛西臨海水族園では、障がいや病気などのために来園することが難しい方々のいる特別支援学校、病院、社会福祉施設、及び教育を目的としたイベント等を対象に、海の生き物に親しむ機会を提供する移動水族館事業を実施した。専用車を活用し、水族園外においてもマアジなど東京湾の魚をテーマにしたプログラム、ウニなど磯の生き物をテーマにしたふれあいプログラムなど、生き物の観察やふれあい体験を通した普及啓発活動に取り組んだ。平成30年度を通じて65回実施し、延べ15,039名が参加した。

6. 友の会運営

動物園・水族園への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育ててもらうために組織している「東京動物園友の会」の運営を行った。

名 称	東京動物園友の会
会 員 数	一般：3,461名 ジュニア：316名（平成31年3月31日現在）
実 施 事 項	① 新規入会、継続手続等、受付・管理事務 ② 季刊雑誌「どうぶつと動物園」及びジュニア向け会誌「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の送付 ③ 各種普及活動案内送付（ダイレクトメール） ④ 新規入会案内パンフレットの配布

(1) 友の会会員対象催物

実施月日	行 事 名	内容・講師等	参加者
5月19日	那須高原観察見学会	那須平成の森、那須どうぶつ王国見学 指導：多摩動物公園	39名
6月9日	アジ釣り体験	東京湾でアジ釣り体験	21名

実施月日	行 事 名	内 容 ・ 講 師 等	参 加 者
		指導：葛西臨海水族園	
6月16日 6月17日 6月19日	ホタル観察会	園内で発生するホタルを観察 指導：多摩動物公園	3日計 13名 (一般含 136名)
8月4日	セミとコウモリの 観察会	上野動物園でセミとコウモリを観察 指導：上野動物園	29名 (一般含 96名)
9月2日	ムササビ観察会	高尾山のムササビを観察 講師：岡林弘幸（中央大学付属高校教諭）、アシスタント2名 指導：多摩動物公園	13名 (一般含 35名)
10月12～ 14日	ツシマヤマネコと 福岡市動植物園見 学会	対馬野生生物保護センター、対馬動物医療センター、ツシマヤマネコ訓化ステーション、福岡市動植物園等見学 指導：井の頭自然文化園	29名
11月24日	筑波研究施設と茨 城県自然博物館見 学会	国立科学博物館筑波研究施設、茨城県自然博物館を見学 指導：上野動物園	30名
1月30日	千支の動物講演会	4園の最近の話題 講演「猪突猛進しないイノシシの生態」 講師：江口祐輔（日本農業センター鳥獣害対策技術グループ長）	172名 (一般含 174名)
3月3日	初心者野鳥観察会	初心者のための野鳥観察会 指導：多摩動物公園	19名 (一般含 31名)
3月9日	高碕賞表彰式・記 念講演会	講演「オガサワラシジミの累代飼育にたどりつくまで」（多摩動物公園昆虫園飼育展示係） 井の頭自然文化園の最近の話題	一般含 68名

(2) ジュニア会員対象催物

実施月日	開 催 園	内 容	参加者
5月12日	井の頭自然文化園	どうぶつたちにだいせっきん！	28名
6月16日	葛西臨海水族園	水族園裏側探検	34名

実施月日	開催園	内 容	参加者
11月18日	多摩動物公園	お仕事探検！動物園の獣医さん	25名
2月9日	恩賜上野動物園	かんがえよう！小獣館のお献立	34名

(3)「友の会の日」の実施

平成30年度の「友の会の日」は葛西臨海水族園で開催し、園内特別見学会と、友の会会員相互及び動物園スタッフとの交流を深めるための懇親会を開催した（128名参加）。

実施月日	催物名	内 容
9月8日	友の会の日 (葛西臨海水族園)	第1部：園内特別スポット見学 第2部：懇親会及びチャリティーバザー（レストラン「シーウインド」）

7. 資料の収集・公開

動物及び動物園・水族館関係の専門書や学術雑誌、普及雑誌を中心に収集した。定期刊行物は、購入や寄贈のほか、動物園、博物館、研究所等の出版物との交換により収集した。

写真・ビデオ等の映像資料のほか、動物の音声資料（録音データ）も園内外の利用に供した。収蔵図書については、ホームページ上に図書検索システムを設けている。

(1) 図書収集状況

区 分	収集 点数	国 内			国 外			摘 要
		購入	寄贈	交換	購入	寄贈	交換	
書 籍 類	163	90	62	0	5	6	0	収蔵数 和書 13,564冊 洋書 4,148冊
雑 誌 類	512	214	166	37	80	11	4	

(2) 図書利用一覧

区分	動物園	哺乳類	鳥 類	爬虫類	魚 類	無脊椎	一 般	その他	計
件数	34	30	10	2	0	0	5	43	124件

(都立動物園水族園関係者は除く)

(3) 映像資料利用状況

区 分	無 料		有 料		合 計	
写 真	28件	196点	99件	521点	127件	717点
ビデオ映像	1件	1点	44件	120点	45件	121点
音 声 資 料	0件	0点	0件	0点	0件	0点
計	29件	197点	143件	641点	172件	838点

(都立動物園水族園関係者は除く)

8. 出版事業

(1) 「東京動物園友の会」会員向け機関誌の発行

動物及び動物園に関する情報を提供するための出版物を発行し、「東京動物園友の会」会員その他関係機関等に配付した。

刊 行 物	内 容
どうぶつと動物園	A4変型判・約54頁／約4,700部／春・夏・秋・冬号 (Vol.70-2～71-1) ・春号は上野動物園のジャイアントパンダの繁殖から公開までの道のりや、新施設「子ども動物園すてっぷ」を紹介する記事、そして保全をテーマにした園長座談会を掲載した。 ・夏号は多摩動物公園のオガサワラシジミの累代飼育の取り組みや、上野動物園のライチョウ、ニホンザルの飼育レポートを掲載した。 ・秋号は上野動物園のニシゴリラの誕生と群れの様子の紹介や、東京湾のトビハゼ、井の頭池のかいぼりについての記事、さらには教育をテーマにした園長座談会を掲載した。 ・冬号は上野動物園のカワセミやニシアフリカコガタワニの繁殖、野生生物保全センターにおけるホルモン測定、動物園における緑の活用についての記事を掲載した。 ・その他、保全活動や研究の最新知見として、小笠原の陸産貝類カタマイマイの保全に向けた活動や、哺乳類のくらしの違いによる体の作り方に関する記事等を紹介した。
ZOO! どーぶつえんしんぶん	A4判・8頁／約700部／8月・2月発行 ・第20号(8月発行)は「カバ」を特集した。上野動物園で飼育するカバの写真を使い、その大きな体の特徴や生態を解説した。また、飼育係の普段の仕事風景や、カバとコビトカバの違いや各個体の紹介等も掲載した。 ・第21号(2月発行)は「レッサーパンダ」を特集した。体の特徴や行動を紹介するとともに、アライグマやタヌキ等、よく間違われる

	動物との比較や、哺乳類のさまざまな歩き方について、わかりやすく解説した。
--	--------------------------------------

(2) 民間との協働による出版物

刊 行 物	内 容
みんなの上野動物園	A4変型判・12頁／約80,000部 みんなの上野動物園 第64号～第69号（6回）発行 ・上野動物園の話題の動物を取り上げ、動物園の魅力を伝える情報誌を発行し、園内や都庁に設置して配布した。
	第64号 上野のマダガスカルへ行こう！、他
	第65号 シャンシャンの成長、他
	第66号 動物の、たべものとうんこ、他
	第67号 リキ、もうすぐ1歳になります、他
	第68号 小獣館のなかまたち、他
	第69号 春がきた！ニッポンにくらす動物たち、他

(3) 葛西臨海水族園情報誌の発行

刊 行 物	内 容
SEA LIFE NEWS	A4判・4頁／約26,000部／第79号～第84号（6回）発行 ・以前発行していた機関誌「SEA LIFE NEWS」を、葛西臨海水族園開園25周年を機に再刊し、展示生物についての情報や保全活動・調査活動等に関する情報を取り上げ、園内で配布した。
	第79号 南極での生物採集 進むチリ南極研究所との相互協力、他
	第80号 展示をつなぐ！ 繁殖の試み、他
	第81号 特設展示「水辺に生きる草」がオープンしました、他
	第82号 小笠原の返還50周年によせて、他
	第83号 特設展示「海のゆりかご」オープン、他
	第84号 魚たちのオス・メス事情、他

(4) 高碕賞の表彰

季刊「どうぶつと動物園」に年間（平成30年春号～31年冬号）に掲載された記事及び写真を対象に、優れた作品を選出し、表彰した。

区分	タイトル	掲載号	氏 名	摘 要
高碕賞	オガサワラシジミの累代飼育にたどりつくまで	夏号	石島 明美	多摩動物公園
奨励賞	多摩動物公園のシフゾウ	春号	松山 直美	
	上野動物園のヒガシクロサイ	冬号	平本 智子	
	多摩動物公園のマレーバク	冬号	中村 沙絵	

【第53回高碕賞表彰式と受賞記念講演会】

・3/9 園内にて実施

受賞記念講演 「オガサワラシジミの累代飼育にたどりつくまで」

石島 明美（多摩動物公園昆虫園飼育展示係 ）

動物園ニュース特別編 「最近の井の頭自然文化園の話題いろいろ」

日橋 一昭（井の頭自然文化園 園長）

9. インターネット事業

都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」、上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」、上野動物園のジャイアントパンダライブ映像配信サイト「UenoPandaLive.jp」及びTwitter（5アカウント）を通じて、動物園・水族園の基本情報及び動物に関する情報を広く提供・配信した。

(1) ホームページ「東京ズーネット」の運営（<https://www.tokyo-zoo.net/>）

【主なコンテンツ（主要コンテンツはスマートフォンに対応したページを公開）】

ページ名	内 容 等
ニュース&催物	都立動物園で飼育している動物に関する最新情報と各園催物情報
イベント情報	カレンダーによる日別のイベントスケジュール情報、定例イベント等に関する情報
各種利用案内	開園時間、休園日、入園料、団体入園、乳幼児・障害者対応、園内利

ページ名	内 容 等
	用施設、交通アクセス、園内マップ
見どころと歴史	各園の特徴と見どころ、および歴史を紹介
保全への取組	野生生物や生物多様性の保全、研究、環境教育に関する取り組みを紹介
どうぶつ図鑑	飼育動物に関する生態等の解説
東京ズーネットBB	動物の様々な行動の動画配信（平成31年3月31日現在計938点）
鳴き声図鑑	動物の鳴き声の音声配信
東京動物園友の会	活動や会誌の紹介
ガイドツアー	各園の動物解説員が行うガイドツアーの内容及びスケジュール案内
蔵書検索	上野動物園資料室に収蔵されている動物関連図書の検索システム
動物園サポーター	動物園サポーターの紹介、登録方法、登録者リスト、会計報告
学校向けプログラム	教育機関のための各種プログラムの紹介
ガイドアプリ	上野動物園と葛西臨海水族園をガイドする都立公園ガイドアプリ「Tokyo Parks Navi」の紹介
おすすめコース	テーマに即した多摩動物公園の観覧コース
かんさつシート	多摩動物公園の「かんさつシート」の紹介
水族園魚タッチングシート	葛西臨海水族園で楽しく生物観察をするためのワークシートの紹介
移動水族館	葛西臨海水族園の「移動水族館」事業の紹介と申込案内
いきもの広場	井の頭自然文化園園内の「いきもの広場」の紹介、毎週の活動の紹介
モルモットふれあいコーナー	井の頭自然文化園モルモットふれあいコーナー事前学習ムービーによる紹介
花ごよみ	井の頭自然文化園の四季おりおりの植物を紹介

（２）ホームページ「UENO-PANDA.JP」の運営（<https://www.ueno-panda.jp/>）

上野動物園のジャイアントパンダ情報サイトとして、展示個体ならびに過去に飼育した個体の情報、飼育係によるレポート、ジャイアントパンダに関する最新情報やQ&A等を紹介。また、保全への取り組みやジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、さらには壁紙ダウンロードコーナーや企業協賛の募集等のコンテンツ等、豊富な情報を掲載した。

【主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
トピックス	上野動物園のジャイアントパンダに関する最新情報
パンダプロフィール	上野動物園で展示している3頭の個体紹介
ジャイアントパンダについて	様々な角度からジャイアントパンダを紹介
パンダムービー	動画によるジャイアントパンダ紹介
歴代のパンダたち	これまで上野動物園で飼育した個体を動画とともに紹介
パンダ舎の紹介	ジャイアントパンダ舎を写真付きで紹介
パンダ大百科	ジャイアントパンダに関するQ&A
保全への取り組み	ジャイアントパンダ保護研究に関する概要
熊貓的新聞（パンダニュース）	飼育係による写真付きのレポート
壁紙ダウンロード	パソコン用にダウンロードできる壁紙を提供
ジャイアントパンダ保護サポート基金	基金の概要、企業協賛の募集

（３）ホームページ「UenoPandaLive.jp」の運営（<https://www.ueno-panda-live.jp/>）

上野動物園のジャイアントパンダ舎に設置したカメラ8台によるライブ映像を配信した（シャンシャン公開開始日の平成29年12月19日に配信開始）。ライブ配信は開園日の9時30分～17時。それ以外の時間帯は録画映像を配信した。

（４）Twitter による情報発信

SNS媒体の一つである「Twitter」を活用し、4園及び東京ズーネットの5アカウントから、積極的に情報を提供した。

アカウント	フォロワー数（平成31年3月31日現在）
恩賜上野動物園 @UenoZooGardens	983,889
多摩動物公園 @TamaZooPark	199,035
葛西臨海水族園 @KasaiSuizokuen	146,675
井の頭自然文化園 @InokashiraPark	95,149
東京ズーネット @TokyoZooNet_PR	392,888

10. 映像記録資料制作

(1) 動物写真撮影

都立動物園・水族園を中心に、飼育動物全般に関する記録及び園内外の行事や催物を撮影・記録した。

(2) ビデオ撮影・制作

飼育動物の行動記録や動物園情報をビデオ映像として撮影記録し、来園者向けニュースや各種研究発表として上映・提供するほか、ホームページ「東京ズーネット」「UENO-PANDA.JP」において配信した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
子ども動物園70周年記念イベント	112分32秒	上野	資料として提供
ツシマヤマネコ人工授精	88分21秒	井の頭	資料として提供
パンダ大使	1分46秒	上野	不忍テラス放映用
ジャイアントパンダ成長	87分44秒	上野	リトルトランク放映用
ジャイアントパンダ成長	20分59秒	上野	理事会用
子ども動物園すてっぷ学校プログラム	68分43秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ子育て・成長	8分56秒	上野	資料として提供
上野動物園園長パンダ担当者コメント	24分	上野	中国パンダ文化週間へ提供
ニシアフリカコガタワニ産卵・孵化	1分14秒	上野	SEAZA講演用
コツメカワウソ密輸保護個体	1分33秒	上野	資料として提供
世界水族館会議プレイベント	22分23秒	葛西	資料として提供
オカピ搬入	12分46秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ子育て・成長	6分22秒	上野	GP運営委員会用
サーバルの子、チーターの子	2分10秒	多摩	干支講演会用
ジャイアントパンダ子育て・成長	7分9秒	上野	中国出張講演会用
ニホンライチョウ展示	24秒	上野	ツイッター用
アフリカツメガエル、ミルクスネーク、アオダイショウの食餌	1分29秒	上野	特設展放映用
コモンツパイ、マヌルネコ	2分29秒	上野	ズーネットBB配信用
フンボルトペンギン	1分50秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ウツボ	1分25秒	葛西	ズーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
トナカイ	1分34秒	多摩	ズーネットBB配信用
プレーリードッグ	1分46秒	上野	ズーネットBB配信用
ヤクシカ、ニホンリス	2分36秒	井の頭	ズーネットBB配信用
クロキツネザル、ジャイアントパンダ シャンシャン誕生日、ハシビロコウ	5分12秒	上野	ズーネットBB配信用
シノノメサカタザメ	1分55秒	葛西	ズーネットBB配信用
オランウータン、チンパンジー	2分16秒	多摩	ズーネットBB配信用
シロフクロウのひな	1分22秒	上野	ズーネットBB配信用
水辺の自然溪流展示	1分22秒	葛西	ズーネットBB配信用
フラミンゴ、真夏の夜の動物園	3分24秒	上野	ズーネットBB配信用
サマーナイト	1分49秒	多摩	ズーネットBB配信用
ナイトオブワンダー	1分24秒	葛西	ズーネットBB配信用
ウォークインバードケージ、アジアゾ ウ、レッサーパンダ	5分29秒	多摩	ズーネットBB配信用
ペリカン	1分57秒	上野	ズーネットBB配信用
ウィーディーシードラゴン、タマカエル ウオ	3分33秒	葛西	ズーネットBB配信用
野鳥の森	1分55秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ショウジョウトキ	1分33秒	多摩	ズーネットBB配信用
アイゾメヤドクガエル、ニシゴリラ、ル リカケス	4分31秒	上野	ズーネットBB配信用
イノシシ	1分47秒	井の頭	ズーネットBB配信用
アカカンガルー、イノシシ、モウコノウ マ	3分41秒	多摩	ズーネットBB配信用
アメリカバク	1分23秒	上野	ズーネットBB配信用
イノシシ、コアラ、チーター、フクロギ ツネ	7分15秒	多摩	ズーネットBB配信用
オオハクチョウ、オリエントオコウモリ、 ミゾゴイ	5分17秒	井の頭	ズーネットBB配信用
スマトラトラ	1分52秒	上野	ズーネットBB配信用
ケープペンギン、日本の鳥	2分30秒	上野	ズーネットBB配信用
シフゾウ、動物脱出対策訓練	3分9秒	多摩	ズーネットBB配信用

(3) 広報用資料の制作

動物園・水族園の広報発表時の写真資料に加え、ビデオ映像を撮影・制作し、提供した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ（4月9日）	1分54秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（4月23日）	1分53秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（5月7日）	1分46秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（5月21日）	1分38秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（6月5日）	1分49秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（6月8日）	1分50秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（6月25日）	1分46秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（7月9日）	1分39秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（7月23日）	1分50秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（8月6日）	1分34秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（8月20日）	1分58秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月3日）	1分51秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月18日）	1分53秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月24日）	1分46秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月8、9日）	2分7秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月22日）	1分58秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月31日）	1分55秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月2日）	1分56秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月11日）	1分27秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月12日）	1分58秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月19日）	2分35秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月10日）	2分11秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月25日）	1分59秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月7日）	1分57秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（2月12日）	1分44秒	上野	報道発表資料

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ（3月5日）	2分9秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（3月11日）	2分48秒	上野	報道発表資料

〔４〕受託業務

１． 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに係る業務受託

東京都からの委託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトについて、恩賜上野動物園におけるジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの進展状況報告書の作成や、中国側の保護資金の使用状況に関する調査を実施した。

項 目	内 容
件 名	上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに関わる業務委託
業 務 内 容	「ジャイアントパンダ保護繁殖研究プロジェクト」の進展状況報告書の作成 中国側のパンダ保護資金の使用状況に関する調査
期 間	平成30年４月１日～ 31年３月31日
委 託 金 額	4,192,560円

２． 特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に係る業務受託

新潟県からの委託により、佐渡市のトキ保護センター、野生復帰ステーションにおいてトキの定期検診及び飼育指導を行った。

項 目	内 容
件 名	特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に関する業務委託
業 務 内 容	① 特別天然記念物トキの飼育・管理指導 ② 特別天然記念物トキの定期健康診断 ③ 特別天然記念物トキの疾病時における専門的治療 ④ 特別天然記念物トキの人工増殖の指導 ⑤ トキ類縁種の研究飼育指導
期 間	平成30年４月１日 ～ 31年３月31日
委 託 金 額	898,000円

3. 大島公園動物園動物飼育管理業務委託

東京都大島支庁の委託により、大島公園動物園における展示動物の飼育管理やイベントの対応等を行った。

項 目	内 容
件 名	大島公園動物園動物飼育管理業務委託
業 務 内 容	大島公園動物園の展示動物の飼育及びこれに関する管理業務
期 間	平成30年4月1日 ～ 31年3月31日
委 託 金 額	33,588,000円

〔５〕市民・団体との協働業務

１．ボランティアとの協働

上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園において展示動物の解説等の教育普及のほか、来園者案内等のボランティア活動を行っている「東京動物園ボランティアーズ（TZV）」（登録者数782名）と、葛西臨海水族園で同様の活動を行っている「東京シーライフボランティアーズ（TSV）」（登録者数153名）に対して、新規応募者や既存会員を対象とした研修会の開催、ニュースレターの発行やユニフォーム等活動経費の援助を行った。また、「NPO法人樹木・環境ネットワーク」が上野動物園と多摩動物公園で、「恩賜上野動物園樹木美化ボランティア」が上野動物園で、樹木や花壇等の管理活動を行った。

（１）「東京動物園ボランティアーズ」新規応募者対象研修会実施状況

園 名	内 容	実施回数	参加者数
恩賜上野動物園	① ドーセントグループ（DG）・サービスガイド（SG）新規応募者合同講習会	① １回	① 73名
	② DG新規応募者前期講習会	② ２回	② 38名
多摩動物公園	DG新規応募者前期講習会	２回	40名
	DG新規応募者後期講習会	１回	37名
井の頭自然文化園	DG新規応募者後期講習会	１回	38名

（２）「東京シーライフボランティアーズ」新規応募者対象研修会研修会等実施状況

園 名	内 容	実施回数	参加者数
葛西臨海水族園	ガイダンス研修	６回	81名

（３）ボランティア会員を対象とした研修会

園 名		内 容	参加者数
TZV	上 野	ボランティアのための動物ガイド、キリン・フラミンゴ、鳥のはね、ウサギ・モルモット、ライチョウ、えさ事情、等	264名
	多 摩	スポットガイド研修、ニホンザル個体識別、哺乳類骨格、モルモットふれあい、保全センターについて、等	184名
	井の頭	いきもの広場の維持管理、井の頭池について、等	79名
TSV	葛 西	マグロ、サメ、ペンギン、干潟の生物、移動水族館、等	158名

(4) ボランティアとの協働による教育活動等

園 名		内 容	実施回数
TZV	上 野	園内スポットガイド、ふれあいコーナー活動等	534回
	多 摩	園内スポットガイド、ふれあいコーナー活動等	563回
	井の頭	しおだまり、東京の海ガイド等	241回
TSV	葛 西	園内スポットガイド、ヤマドリガイド等	425回

2. サポーター事業

個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、「動物園サポーター」として登録し、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進した。

(1) 動物園サポーターの登録状況

園 名	個人 (大人) 1口：10,000円	個人 (大学生以下) 1口：5,000円	子供 サポーター 1口：500円	法人 (団体) 1口：50,000円	金額
上 野	365名 449口	14名 16口	10名 20口	7法人 10口	5,080,000円
多 摩	189名 246口	12名 16口	13名 16口	2法人 3口	2,698,000円
葛 西	12名 14口	1名 2口	0名 0口	1法人 1口	200,000円
井の頭	60名 77口	0名 0口	11名 32口	2法人 12口	1,391,572円*
合 計	626名 786口	27名 34口	34名 68口	12法人 26口	9,369,572円

* 1口未満の寄付を含む

(2) サポーターを対象とした園内見学等の催物（サポーターズデイ）等の実施

実施月日	開催園	内 容	参加者
6月24日	上 野	講演会と収支報告	138名
10月13日	多 摩	今年生まれた動物の紹介、動物舎で飼育係の解説	103名
11月18日	井の頭	近況と収支報告、園長の動物園ガイド、ヤマネコの話	25名
2月3日	上 野	講演会と動物舎で飼育係の解説	173名
3月3日	多 摩	資金活用報告、動物舎で飼育係の解説	130名

3月9日	葛西	「水辺の自然エリア」、「特設展」ガイドツアー	4名
------	----	------------------------	----

(3) サポーター資金による飼育展示等の改善

園名	実施事項
恩賜上野動物園	①アシカアザラシ池産室内日除けテント及びネット設置 ②スマトラトラガラス面フィルム設置 ③オカピスポットエアコン設置 ④ツキノワグマ及びマレーグマバークチップ購入・敷き替え ⑤子ども動物園すてっぷ植樹 ⑥ケーブペンギン営巣穴修繕 ⑦ニホンライチョウマジックミラーフィルム設置 ⑧ニホンライチョウ天井ネット設置 ⑨子ども動物園すてっぷニワトリの砂浴び箱、止まり木作製用材料購入 ⑩フラミンゴ獣害防止網購入 ⑪ゴリラフィーダー用ブイ購入 ⑫ツル床面用砂購入 ⑬ウサギ及びモルモット及びハツカネズミふれあいプログラム用台座 資材購入 ⑭ウマ用カウマット購入 ⑮タンチョウ苗木購入 ⑯アジアゾウ及びニホンザル特別給餌（スイカ） ⑰ツキノワグマ及びコビトカバ特別給餌（サポーターズデイ用） ⑱ツキノワグマ及びクロシロエリマキキツネザル特別給餌（サポーターズデイ用）
多摩動物公園	①アジアゾウ及びアフリカゾウ山砂設置 ②アフリカゾウオイルヒーター設置 ③オランウータン植物設置 ④クロツラヘラサギ用植物設置 ⑤タスマニアデビル送風機、スポットクーラー、照明・暖房器具設置 ⑥トナカイ温度対策用ミスト、スポットクーラー設置 ⑦フラミンゴ土壌改修 ⑧モウコノウマ舎内扇風機及びコンセント設置 ⑨ライオンミストシステム設置 ⑩アジアゾウ用パワードラム購入 ⑪オランウータン遊具用練り樽購入 ⑫オランウータン及びシロテテナガザル用コラーゲンケーシング購入 ⑬家畜馬用飼葉入れ及び砂利購入 ⑭モウコノウマ細目砂購入

	⑮ユキヒョウ遊具購入 ⑯両生類ミスティングシステム購入 ⑰アジアゾウ及びアフリカゾウ特別給餌（スイカ）購入
井の頭自然文化園	①パンパステンジクネズミ用植物育成ライト設置 ②モルモットふれあいコーナーミスト発生機設置 ③シカ舎他ミスト噴霧器設置
葛西臨海水族園	・田んぼ水槽製作設置

3. 関係団体への協力

（１）国際自然保護連合への協力

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 略称IUCN）の委員会である種保存委員会（Species Survival Commission 略称SSC）の保全計画専門家グループ（Conservation Planning Specialist Group 略称CPSG）へ、事業援助のため寄付を行った。

（２）関係団体への協力

動物園事業に関係する20の団体に加入し、情報の交換や募金活動への協力を行った。

〔加入団体〕

会員区分	団 体 名	会員区分	団 体 名
特別賛助会員	(公財)世界自然保護基金ジャパン	団 体 会 員	日本霊長類学会
法 人 会 員		〃	(一社)日本応用動物昆虫学会
賛 助 会 員	(公財)日本鳥類保護連盟	〃	(一社)日本環境教育学会
〃	(公財)山階鳥類研究所	〃	(一社)日本昆虫学会
〃	(一社)日本生態学会	〃	日本鱗翅学会
維 持 会 員	日本動物心理学会	〃	日本鳥学会
団 体 会 員	(公社)日本動物園水族館協会	〃	日本爬虫両棲類学会
〃	(公財)日本博物館協会	〃	(一社)日本生物教育学会
〃	(一社)日本哺乳類学会	〃	(公社)日本造園学会
〃	(公財)日本動物学会		
	(公財)日本自然保護協会		

（３）動物愛護週間中央行事への協賛

実施月日	9月22日（屋外行事）、9月15日（屋内行事）
行 事 名	動物愛護週間中央行事

主 催	環境省、東京都ほか計11団体
内 容	「動物愛護フェスティバル」の各種行事やシンポジウム等に協賛した。
会 場	上野恩賜公園（屋外行事）と台東区生涯学習センター（屋内行事）

4. 基金事業

(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金の運営

募金やドネーション商品からの寄付、企業からの協賛金等を積立て、ジャイアントパンダ保護に向けた普及啓発活動や上野動物園での飼育環境の向上、東京都と中国が共同で進めている繁殖研究プロジェクトへの支援に活用した。

①収入の状況

項 目	金 額	内 容
寄付金	32,180,960円	①園内外募金箱への募金 ②SAVE the PANDAパートナーズ ほか
企業協賛金	16,321,383円	①園内広告協賛 ②園内イベント協賛 ほか
ドネーション商品 売上金からの寄付金	26,455,570円	オリジナルドネーション商品売上金額の5% アイテム数：52点（ぬいぐるみ、お菓子ほか） 売上点数：425,987点

②基金活用の状況

使 途	活用内容	活用金額
ジャイアントパンダの保護に向けた普及啓発活動	シンポジウムや観察会、パンダの日イベントの開催、ライブ映像配信ほか	9,797,027円
上野動物園におけるジャイアントパンダの飼育環境の向上	運動場への木組みの設置、パンダ舎内監視カメラの増設、屋外放飼場フェンスの設置	2,222,640円
東京都と中国野生動物保護協会が共同で進める国際的なパンダ保護活動	東京都と中国の共同繁殖プロジェクト支援（東京都へ寄付）	10,000,000円

③基金残高

基金残高	162,229,845円（平成31年3月31日現在）
------	----------------------------

④ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会の開催

基金を適正に管理し事業に活用するため、ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会を開催した。

〔委員・顧問〕（平成31年 3 月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	菅 谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
副 委 員 長	鈴 木 勝	公益財団法人東京動物園協会理事長
委 員	湯川れい子	音楽評論家・作詞家
委 員	二 木 忠 男	上野観光連盟会長
委 員	片 山 謙	東京都建設局次長
顧 問	黒 柳 徹 子	女優・ユニセフ親善大使

〔運営委員会〕

回	開催月日	議 題
第 1 回	8 月 6 日	(1) 平成29年度決算報告について (2) 平成30年度基金事業について
第 2 回	2 月13日	(1) 平成30年度基金進捗状況について (2) 平成31年度基金事業・予算（案）について

（2）東京動物園協会野生生物保全基金の運営

野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の支援を目的として、助成対象活動を公募し、審査のうえ、助成金交付を行った。

平成30年度は基金制度を改正し、3つの部門（保全活動・調査研究・普及啓発）を創設して広く応募を募るとともに、助成金額の上限を100万円/件（従来50万円/件）に引き上げ、助成件数を3部門合計10件程度（従来3～4件）として、大幅な拡充を図った。公募にあたってはポスターとチラシを作成し、全国の大学・博物館・研究施設・NPO及び理科教育に関心の高い高等学校等に送付し本助成制度を広くアピールした。

また、助成対象活動及び基金事業のPRのために講演会を開催したほか、事業の紹介や助成対象活動についての啓発を目的としたパンフレットを制作し、配布した。

①助成金交付実績

〔平成30年度〕

＊平成30年 2 月 1 日～2 月28日公募。29年度内に助成対象を決定し、30年度に助成金を交付。

助成対象活動名	助成対象者	交付額
セマルハコガメの保全遺伝学研究	鈴木 大	498,800円

湿性草原棲クイナ類の生息状況調査手法の評価	特定非営利活動法人 おおせっからんど	500,000円
琉球列島に生息するクビワオオコウモリ保全のための音響学的研究	島コウモリ調査グループ	500,000円
キリンにおける繁殖生理の非侵襲的調査法の確立と性成熟年齢の解明	岐阜大学 応用生物科学部 動物繁殖学研究室（動物保全繁殖学）	500,000円

②収入の状況

寄付金	665,000円	企業・個人からの寄付、友の会の日バザー売上金
-----	----------	------------------------

③基金残高

基金残高	56,250,104円（平成31年3月31日現在）
------	---------------------------

④東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会の開催

助成対象活動の選定を適正かつ公正に行うため、東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会を開催し、助成対象活動を選定した。

〔審査委員会〕：

開催月日	議 題
3月26日	平成31年度助成対象活動選定について

⑤助成対象活動選定結果

* 平成31年2月1日～2月28日公募。30年度内に助成対象を決定し、助成金は31年度に交付。

* 平成31年度から助成金額の上限を100万円に引き上げ、助成件数を3部門合計10件程度に拡充。

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
湿性草原棲クイナ類の生息状況推定方法の開発 - 調査精度に対する植生の影響評価	調査研究	特定非営利活動法人 おおせっからんど	1,000,000円
コンゴ民主共和国ルオー学術保護とその周辺地域における野生ボノボの保全活動	保全活動	特定非営利活動法人 ビーリア（ボノボ）保護支援会	733,150円
環境DNAを用いた山形県南地域の水圏希少生物及び侵略的外来生物の調査・研究	調査研究	山形県立米沢興譲館高等学校	1,000,000円
ツシマヤマネコの餌資源にツシマジカが与える影響の解明	調査研究	服部 充	610,200円

人と共存していく最高次捕食者:希少亜種ダイトウコノハズクの採餌生態の解明	調査研究	ダイトウコノハズク保全研究グループ	996,850円
和歌山市周辺地域（里山・都市・離島）の生息環境による生物比較調査	調査研究	和歌山県立向陽中学校 理科部	993,600円
東京都町田市に生息するムササビ孤立個体群の保全に向けた、生息数推定および分布地域特定の試み	調査研究	町田ムササビ保全研究グループ	955,410円
キリンの国内飼育下個体群における繁殖生理状態把握に関する一斉調査	調査研究	岐阜大学 応用生物科学部 動物繁殖学研究室(動物保全繁殖学)	950,000円
琉球列島固有種ケナガネズミの普及啓発	普及啓発	ケナガネズミ研究グループ	546,000円
琉球列島に生息するクビワオオコウモリ保全のための音響学的研究	調査研究	島コウモリ調査グループ	1,000,000円
ボルネオオランウータンのメスの妊娠・出産と果実生産量に関する基礎的研究	調査研究	久世 濃子	1,000,000円

- ⑥ 「東京動物園協会野生生物保全基金」報告講演会（会場：上野動物園管理事務所、参加者75名）

平成29年度の助成活動について報告会を実施した。

実施月日	内 容
3月24日	講演1 「ハシビロコウの生理状態と行動パターン——飼育下での繁殖に向けて」 楠田 哲士 氏（岐阜大学応用生物科学部准教授） 講演2 「野生ヨウム野生復帰と密猟防止のための戦略」 西原 智昭 氏（特定非営利活動法人アフリカ日本協議会理事） 講演3 「マダガスカル北西部の原猿類を調査する——アイアイの生息状況」 島 泰三 氏（日本アイアイ・ファンド代表） 講演4 「インドネシアのマレーヒョケザルの保全に向けて——滑空能力についてわかったこと」 辻 大和 氏（京都大学霊長類研究所助教）

〔6〕危機管理対策

平成30年度は「命を預かる現場としての安全確保や事故発生抑止、事業継続計画の推進、情報セキュリティ対策の強化等危機管理対策の拡充」を組織方針の一つに掲げ、全職員の危機管理意識の向上に努めた。

（１）事業継続（BCP）計画

大規模災害の発生を想定し、備蓄品の確保やマニュアルを整備したほか、訓練を通して関連団体との連携を強化し災害対応力を向上させた。平成30年度には震災対策訓練として各園及び総務部で初動対応訓練を実施したほか、葛西臨海水族園においては一般公募者1,500名規模の避難誘導訓練を実施した。また、東京2020大会の開催に向け対策を強化しているテロ対策として、警視庁との協働によるテロ対策訓練を恩賜上野動物園及び多摩動物公園において実施した。

	開催日	目 的
第1回 震災対策 初動対応訓練	井の頭 6/18 上 野 7/9 多 摩 7/11 総務部 10/22	災害対応力の向上を目的として全園で実施 ・前年度の未達項目の解消を確認 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・関係団体との連携強化
公募型災害対策訓練（「お・さ・か・な※」大作戦2018）	葛 西 7/7	首都直下型地震を想定した、1,500名規模の入園者の迅速かつ効果的な避難誘導 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認
参集訓練	総務部・4園 11/16	参集経路の確認と参集者による災害対策本部立ち上げを実施
第2回 震災対策 初動対応訓練	葛 西 12/5 井の頭 12/17	災害対応力の向上を目的として実施 ・前回の未達項目の解消を確認 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・関係団体との連携強化
テロ対策訓練	上 野 12/10 多 摩 1/31	テロの発生抑止と対応力の向上を目的として実施 ・セキュリティ意識の向上 ・初動対応の確認 ・警察・関係団体との連携強化

※「おさず・さわがず・かけださず・なによりだいじなあなたの命」の略

（２）災害時対策

台風や大雨等の気象警報発令時等には、巡回点検や職員の事務所待機を行い災害時に備えるとともに、被害復旧対応を行った。

また、多摩動物公園において、地震発生によりオランウータン舎運動場の木が倒れ、枝を伝ってオランウータン1頭が脱出したという想定により、動物脱出対策訓練を平成31年2月

に実施した。訓練では、来園者の避難誘導・関係機関への通報・脱出動物の追跡保護・AED（自動体外式除細動器）を使用した負傷者救護等を行った。

（３）工事等安全講習会

工事等を委託する指定店事業者を対象に、労働基準監督署より講師を招き、建設工事の安全について講習会を行い、111社が参加し安全指導を行った。

（４）事故防止研修

施設課職員を対象に四半期ごとに行われる施設課全体会の中で、安全パトロールの指摘事項について、改善策を出し合った。また、安全対策を習慣化するため、KY（危険予知）ミーティングを実施し、注意喚起を行った。

（５）情報セキュリティ対策

巧妙化するサイバー攻撃への対応、個人情報を含む重要情報等の取り扱いを周知徹底するため、全職員を対象に集合研修を行った。また、万が一情報漏えいが発生した場合の初動対応及び連絡体制の確認のため、情報セキュリティ机上訓練を行った。

情報セキュリティ対策として、情報セキュリティ自己点検（年２回）、パソコン端末上の個人情報等の点検及び削除、標的型メール対策訓練、e-ラーニングを行った。

第3 収 益 事 業

I. 事業総括

恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の利用者の利便と公益目的事業の充実のために、以下の事業を実施した。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
I. 便益施設の経営	(1) 恩賜上野動物園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) 写真(映像資料)貸出	1
		(6) ベビーカー貸出所	3
		(7) コインロッカー	2
		(8) フォトサービス	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	13
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
		(7) ライオンバス	1
		(8) フォトサービス	1
	(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	3
		(5) コインロッカー	2
	(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2
		(2) 臨時売店	1
		(3) 自動販売機コーナー	3
II. その他事業	(1) 恩賜上野動物園内広告事業(広告施設10箇所)		
	(2) 協賛金募集事業(ジャイアントパンダ保護サポート基金等)		

Ⅱ. 事業実績

〔１〕 便益施設等の経営

収益事業においては園内状況に応じた柔軟な店舗運営を実施し、各園、各店舗においては季節や園内のイベント・キャンペーンに応じた、賑わいの創出を目的に夏の夜間開園、冬のVisitほっとZoo、周年事業などに合わせ、商品やサービスの提供を行い動物園の魅力の発信に努めた。また、4園の全店舗でクレジットカード、電子マネーによる決済を導入し、動物園・水族園の利便性向上に寄与した。

- 恩賜上野動物園では、ジャイアントパンダの仔(シャンシャン)の1歳記念商品・飲食メニューをはじめとする展示動物や園内イベントに関連した商品展開と店舗装飾を行った。また、店舗及び、周辺環境の整備、改善を実施した。
- 多摩動物公園では、開園60周年、昆虫生態園30周年記念事業に連動した商品展開と店舗装飾を行った。また、アフリカ園に新設された無料休憩所(サバンナキッチン)では、「食」を通じてアフリカに親しみが持てる食事メニュー等の提供を行った。
- 葛西臨海水族園では、企画展「海のゆりかご」に合わせた商品・飲食メニュー提供を中心に、展示動物やイベントに関連した商品展開を行った。また、ギフト店舗では店内環境整備を実施した。
- 井の頭自然文化園では、リスの小径30周年記念の商品の展開や展示動物に関連した商品、飲食メニューの提供を行った。

1. 施設及び収入額

(単位：千円)

園 名	施 設 名	収 入 額
恩賜上野動物園 ※改修工事のため 閉鎖中	1. 1号売店(店名：リトルランク) 2. 4号売店(店名：カメレオン) 3. 東園中央広場売店(店名：バードソング) 4. 東食売店(猿山前)※ (飲食店第1号のオープンに合わせて統合) 5. 飲食店第1号(東園)※ 6. 飲食店第2号(西園) 7. 臨時売店 8. 自動販売機コーナー 9. ベビーカー貸出所 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. 写真(映像資料)貸出 13. その他	2,827,025

多摩動物公園 ※改修工事のため 閉鎖中	1. 2号売店（コアラ館） 2. 3号売店（ライオン園） 3. 4号売店（店名：コレクション） 4. 5号売店（店名：ズーカフェ） 5. 飲食店（店名：サバンナキッチン） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス※ 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	457,465
葛西臨海水族園	1. 1号売店（店名：アクアマリン） 2. 2号売店（店名：アクアスケープ） 3. 飲食店（店名：シーウィンド） 4. 自動販売機コーナー 5. コインロッカー 6. その他	545,206
井の頭自然文化園	1. 1号売店（店名：はな子カフェ） 2. 2号売店（店名：こもれび） 3. 自動販売機コーナー 4. その他	106,975
合 計		3,936,671

2. 商品取扱状況

（単位：点）

区 分		恩賜上野 動物園	多摩 動物公園	葛西 臨海水族園	井の頭 自然文化園
取扱商品数		1,015	1,149	1,372	220
内 訳	ギフトその他	819	917	1,218	129
	飲 食 品	196	232	154	91

〔２〕その他の事業

１．恩賜上野動物園内広告事業

恩賜上野動物園の案内誘導サイン等の整備費用に充てるため、園内に設置した下記の広告掲示施設により、広告料金による民間からの資金を得た。

種 別	設 置 場 所	数 量
動物解説ボード	ジャイアントパンダ、ニホンザル、サイ、ゾウ、ゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	８基
環境啓発ボード	モノレール東園駅前	１基
収 入 額	3,637 千円	

２．協賛金募集事業

ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した事業展開のため、園内メディアやイベントの協賛、園外でのロゴマーク協賛等を実施した。

収 入 額	16,321 千円
-------	-----------

第 4 事 務 報 告

I. 役員会議の開催

〔1〕 評議員会

回	開催月日	議 題
書面決議	4 月 1 日	(1) 理事の選任について
第 1 回	6 月 28 日	(1) 平成29年度決算報告（案）について 監査報告 平成29年度事業報告について (2) 理事・監事の選任について
書面決議	2 月 22 日	(1) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (2) 常勤理事の報酬総額の変更について 平成30年度収支予算の補正について 資金調達及び設備投資の見込みの追加について

〔2〕 理 事 会

回	開催月日	議 題
第 1 回	4 月 12 日	(1) 理事長の選定について (2) 常勤理事の報酬額について
書面決議	5 月 1 日	(1) 確定給付企業年金規約の一部改正について
書面決議	5 月 23 日	(1) 評議員候補者の推薦について
第 2 回	6 月 13 日	(1) 平成29年度事業報告（案）について (2) 平成29年度決算報告（案）について 監査報告 (3) 定時評議員会の開催について (4) 評議員選定委員の選任について (5) 評議員候補者の推薦について 理事長及び常務理事の職務状況報告
書面決議	6 月 28 日	(1) 理事長の選定について (2) 常務理事の選定について (3) 顧問就任の承認について (4) 特別会員の推薦について

回	開催月日	議 題
書面決議	2月8日	(1) 平成30年度収支予算の補正について (2) 資金調達及び設備投資の見込みの追加について (3) 評議員会の開催について
第3回	3月18日	(1) 平成31年度事業計画(案)について (2) 平成31年度収支予算(案)について (3) 資金調達及び設備投資の見込みについて (4) 常勤理事の報酬額の変更について (5) 参与の委嘱及び報酬額について 理事長及び常務理事の職務状況報告
書面決議	3月31日	(1) 常務理事の選定について (2) 常務理事の報酬額について (3) 事務局長の任免について (4) 諸規程の一部改正について

〔3〕評議員選定委員会

回	開催月日	議 題
第1回	5月24日	(1) 評議員の選任について
第2回	12月26日	(1) 評議員の退任にともなう後任者の選任について

Ⅱ. 監 査

〔1〕京橋監査法人と監査契約を締結し、公認会計士による会計帳簿・証憑書類の試査、実地棚卸立会、現金実査、銀行残高確認等の外部監査を実施した。

〔2〕平成29年度の事業報告及び決算報告について、30年6月5日に監事による監査を実施した。

Ⅲ. 人事関係

〔１〕 就任・退任

① 評議員の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
評 議 員	細 岡 晃	6 月 28 日	東京都西部公園緑地事務所長
〃	打 越 綾 子	1 月 15 日	成城大学法学部教授
〃	栗 下 善 行	1 月 15 日	東京都議会環境・建設委員長

② 評議員の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
評 議 員	篠 永 哲	6 月 28 日	元東京医科歯科大学大学院助教授
〃	田の上いくこ	10 月 4 日	東京都議会環境・建設委員長
〃	片 山 謙	3 月 31 日	東京都建設局次長

③ 理事の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
理 事 長	鈴 木 勝	4 月 1 日	東京都建設局理事
理 事	鷲 谷 いづみ	6 月 28 日	中央大学理工学部教授
〃	村 井 良 子	6 月 28 日	有限会社プランニング・ラボ代表取締役

④ 理事・監事の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
理 事	羽 仁 進	6 月 28 日	映画監督・評論家
常 務 理 事	滝 澤 達	10 月 20 日	元東京都公園緑地部長（死去）
理 事	青 木 淳 一	10 月 31 日	横浜国立大学名誉教授
監 事	今 村 篤 夫	3 月 31 日	東京都建設局総務部長

⑤ 参与の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
参 与	田 畑 直 樹	3 月 31 日	東京都葛西臨海水族園 園長

⑥ 顧問の就任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
顧 問	羽 仁 進	6 月 28 日	映画監督・評論家

〔 2 〕 役員等名簿（平成31年 3 月31日現在）

○総 裁 常陸宮正仁親王殿下

○会 長 貫 洞 哲 夫

（1）評 議 員

No.	氏 名	摘 要
1	林 良 博	国立科学博物館長
2	高 橋 茅 香 子	翻訳家
3	松 島 ト モ 子	俳優
4	内 山 晟	動物写真家
5	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
6	海老名 香 葉 子	エッセイスト
7	遠 藤 秀 紀	東京大学総合研究博物館教授
8	今 泉 忠 明	日本ネコ科動物研究所長
9	林 公 義	前横須賀市自然・人文博物館長
10	三 浦 慎 悟	早稲田大学人間科学学術院教授
11	安 藤 元 一	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
12	打 越 綾 子	成城大学法学部教授
13	栗 下 善 行	東京都議会環境・建設委員長
14	片 山 謙	東京都建設局次長
15	大 道 和 彦	東京都東部公園緑地事務所長
16	細 岡 晃	東京都西部公園緑地事務所長
17	佐 野 克 彦	公益財団法人東京都公園協会理事長

(2) 評議員選定委員会

No.	氏 名	摘 要
1	清 水 眞 澄	成城大学名誉教授・三井記念美術館館長
2	会 田 保 彦	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
3	高 橋 茅 香 子	翻訳家
4	木 村 欣 二	前あかつき証券株式会社顧問
5	矢 野 一 郎	公益財団法人東京動物園協会総務部長

(3) 理事・監事

No.	役職名	氏 名	摘 要
1	理 事 長	鈴 木 勝	東京都建設局理事
2	常 務 理 事	熊 倉 伸 一	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
3	理 事	菅 谷 博	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館名誉館長
4	〃	島 津 久 永	公益財団法人山階鳥類研究所顧問
5	〃	見 城 美 枝 子	青森大学副学長、エッセイスト
6	〃	長 谷 川 寿 一	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事
7	〃	西 源 二 郎	東海大学海洋学部客員教授
8	〃	加 藤 勉	京王電鉄株式会社相談役
9	〃	鷲 谷 い づ み	中央大学理工学部教授
10	〃	村 井 良 子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
11	〃	日 浦 憲 造	東京都建設局公園緑地部長
1	監 事	木 村 欣 二	前あかつき証券株式会社顧問
2	〃	須 賀 光 一	上野のれん会会長
3	〃	今 村 篤 夫	東京都建設局総務部長